平成26年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第3日)

平成26年12月11日(木曜日)

議事日程(第3号)

平成26年12月11日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(19名)

1番 春田 新一君	2番 小島 徳重君
3番 入江 有紀君	4番 船越 洋一君
5番 渕上 清君	6番 脇本 啓喜君
7番 黒田 昭雄君	9番 長 信義君
10番 波田 政和君	11番 上野洋次郎君
12番 齋藤 久光君	13番 小宮 教義君
14番 初村 久藏君	15番 大浦 孝司君
16番 小川 廣康君	17番 大部 初幸君
19番 作元 義文君	20番 山本 輝昭君
21番 堀江 政武君	

欠席議員(2名)

8番 小田 昭人君	18番 兵頭 栄君
-----------	-----------

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

局長	神宮 満也君	次長	松本 政美君
課長補佐	國分 幸和君	主任	洲河 直樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部 能成君
副市長	高屋 雅生君
副市長	比田勝尚喜君
教育長	梅野 正博君
しまづくり戦略本部長	平山 秀樹君
総務部長	桐谷 雅宣君
総務課長	根ノ 英夫君
総合政策部長	平間 壽郎君
市民生活部長	俵 輝孝君
福祉部長	仁位 孝良君
保健部長	福井 順一君
農林水産部長	阿比留勝也君
建設部長	西村 圭司君
水道局長	増田 敬一君
教育部長	豊田 充君
中対馬振興部長	多田 満國君
上対馬振興部長	園田 俊盛君
美津島行政サービスセンター所長	中村 三喜君
峰行政サービスセンター所長	三宅 一郎君
上県行政サービスセンター所長	永野 清利君
消防長	竹中 英文君
会計管理者	阿比留 保君
監査委員事務局長	糸瀬 美也君
農業委員会事務局長	春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（堀江 政武君） おはようございます。報告します。小田昭人君、兵頭栄君より欠席の届け出があっております。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（堀江 政武君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は5人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） おはようございます。市民の声を生かす、市民の市政をモットーに頑張っております。13番議員の小宮教義でございます。今日は、私がトップバッター、目元パッチリのようにございますので、私の持ち時間はわずか50分でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

アメリカに、この世界の国債の格付をする会社がございます。ムーディーズという会社でございます。この会社は、今月の1日に日本の国債の格付をいたしました。4段階から1段下げて5段階に下がったわけですね。Aの位置になったわけです。これは、お隣の韓国、そして中国、それよりも日本の国債の信用性が落ちたわけですよ。ランクでいうと、19番までこの日本の信用が落ちたようでございます。この原因が、消費税の増税の見送り、これによって日本の財政赤字の削減達成が見込めなくなったというのが、主な原因のようでございます。

この日本は借金が1,000兆円ですよ。GDPの比率でいうと、比率といいますが、それで計算しますと、GDPの2倍以上の借金をしておるんですよ。このGDPの比率からいうと、先進国では最悪の最悪の最悪です。やはり、今回の消費増税、これはやっぱり法律に基づいてしなければいけない。そして、低額所得者を考慮した軽減税率の導入によって私は実施すべきだったと思います。ちょっと話変わりますけれども、日本の国内、今は衆議院選挙の真っただ中でございます。今月の14日、日曜日でございますが、投票日を迎えます。私どものこの3区からは谷川前代議員が立候補をされておられます。今回は、ぜひ最高の得点で当選をしていただいて、そして私どもこの対馬の抱える大きいテーマ、国境離島新法の成立に御尽力を賜りたいと思います。

この谷川前代議員の座右の銘がございしますが、打成一片。

○議長（堀江 政武君） 小宮議員、ちょっと休憩します。

午前10時04分休憩

.....
午前10時04分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

○議員（13番 小宮 教義君） 打成一片という言葉がございします。目的に向かって突進していただきたいと思ひます。

対馬の話になりますけれども、前回から一般質問もございしますが、仏像がまたもや盗まれました。韓国の方によってですね。もう2回目になるわけでございますが、やはり日本国も韓国政府に対して、このようなことが再び起きないように措置の徹底を、やかましゅう言っていたきた

いと思います。

この仏像でございますが、美津島の梅林寺の仏像、誕生仏といいますが、これはゴータマ・シッタールタ、お釈迦様の誕生仏、誕生したときのお姿だそうでございます。これが、お釈迦様は生まれてすぐに四方を7歩ずつ歩いて、そしてこの仏像の形、こうですかね、右手は上を指して、左手は天を指しているそうです。これは、宇宙を意味するんだそうですよ。宇宙を、下と上。そして、お釈迦様がそのとき言われた言葉は「天上天下唯我独尊」、この天上天下というのは宇宙ということですから、宇宙の中で私が一番えらいんだと言われたそうでございますが、きのうの話の中でふるさと納税の話も出てまいりました。この天上天下唯我独尊、この言葉は市長のために用意された言葉ではなかろうかと思いますが、いかがでありましょうか。

では、通告しておりました2点についてお尋ねいたします。

まず、第1点の市の指定金融機関について。

これは、今までずっと十八銀行がこの指定銀行に指定をされておられました。ほかにも親和銀行がございます。私もほかの、ほかと申しますか、この長崎県下の状況をお聞きすると、主な銀行で交代制で年度を決めてしてあるところもあるそうでございますが、そのような対応ができないかという点が1点ですね。

そして、2点目はいづはら病院跡地の問題でございますが、9月の定例議会の冒頭に市長が和白病院と合意に達したという報道がなされました。特に、厳原市民の方はもう本当両手を挙げるといいますが、もう大変な喜びでございますよ。そのような病院がいつできるかということの質問でございましたが、これについては同様な質問を2名の方がされましたので、基本的な内容は理解できました。壇上での答弁は必要ございませんけれども、詳細については後でこの席から直接質問をさせていただきます。

よって、壇上の答弁は1番の分だけでお願いをしたいと思います。

以上。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。小宮議員の質問に答えさせていただきます。

市の指定金融機関についてということで、この今まで十八銀行だけが指定金融機関であったけれども、島内には親和銀行さんもある。県内にこの銀行を交代させているケースもあるが、どのように考えているのかという御趣旨の質問だったと思っております。この指定金融機関の問題につきましては、地方自治体は地方自治法第235条第2項の規定によって、議会の議決を経て一つの金融機関を指定することとされております。

本市におきましては、合併の折、地域と結びつきの強い、十八銀行を指定金融機関に指定をし、現在に至っております。指定金融機関を選定する基準は、幾つかございますが、最も重要なこと

は市民の皆さんの利便性を考慮することではないかと思っております。また、指定金融機関は指定代理金融機関、それから収納代理金融機関の交付金の出納事務を総括するという立場で、重い責任を持っていることから、それなりの規模、経営の健全性、また公金取り扱いの実績、事務の正確性、こういったものが必要であるというふうに考えております。

現在、対馬市の指定金融機関は冒頭言いましたように十八銀行さんでございます。代理金融機関は親和銀行、収納代理金融機関は郵貯銀行、長崎県信用漁業共同組合連合会、さらに市内の9つの漁協及び対馬農業協同組合となっております。

長崎県内13市の指定金融機関の現状につきましては、長崎市など6団体が十八銀行を、佐世保市など5団体が親和銀行を指定金融機関として指定をし、諫早及び南島原市の2団体においては十八銀行と親和銀行との交代制としているところでございます。

銀行の再編、また破産処理時の預金保険機構が直接預金者に支払う、以前もよく聞いたと思いますが、ペイオフの問題など金融機関を取り巻く環境の変化に伴い、対馬市といたしましても市民の皆様の利便性を最重点に考慮する中で、この指定金融機関問題を考えていく必要があると思っております。

現在、十八銀行は対馬島内に4店舗ございます。対馬支店、比田勝支店、豊玉支店、美津島出張所の4店舗でございます。上対馬、豊玉の両会計課分室での現金の入金、払い出し、納付書払い込みは比田勝支店、豊玉支店で行っているところです。

仮に、親和銀行が指定金融機関となった場合、市内に1店舗しかないことにより、伝票、現金の移動など親和銀行の負担、経費の増となり、ひいては市民サービスの低下につながらないかと危惧されるところです。また、交代制を導入するにあたっては、納入通知書等の印刷経費など少なからず行政経費が発生することも予想されます。

競争原理の導入も考えていかねばならないというところは認識をしているところでございますが、御提言の趣旨というのわかります。十八銀行は市内に4店舗展開をしていること、合併前の旧6町の指定金融機関としての実績があり、これまでの実績による信頼関係が構築されていることなどにより、交代制の導入については現段階においては考えておりません。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） では、現段階においては考えていないという、検討すらないということなんでしょうけれども、皆さんの記憶にも新しいと思うんですが、3年ぐらい前でしたか、3年か4年ぐらい前に十八銀行が上県支店を閉じたときがございまして。あのときに、地域の方、そして市長のほうもかなりお願いしたと思うんですが、なくなった後のATMの設置についてお願いをしたわけです。

私も議会で十八以外にほかに銀行はあるじゃないかという話をしましたが、それでもなかなかうんと言わなかった。そして、最後しぶしぶATMをつけたわけですが、先ほど市長が言われるように、市民の利便性を図る。この基本的なことに十八銀行は揺れているじゃないかと。指定機関としての資格が全くもってないんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられた個別の事象だけを捉えての判断というわけにはまいらないというのが、この問題だろうというふうに私は解釈をしております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 銀行と市民の利便性を図るということであれば、銀行はたくさんあったほうがいいですよ。以前は西日本シティもあって3つぐらい大きいのがありましたけども、今はこの2つの銀行だけです。これがたくさんあったほうが利便性が高まるんですね、市民の。仮に1個になるということであれば、独占企業的なものになるわけですね。それで、この今ある銀行を何らかの形で、2つの銀行を残すという形で、何らかの形で市のほうで支援をするということではできないんでしょうかね。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 直接的な支援ということは、不可能なことであろうというふうに思っておりますが、私どもも縁故債の問題等がございます。それらのことについて一定のこちらも考えをしていなければいけないというふうな考えも持ち合わせております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） そうですよ。縁故債がございますが、今十八から借りているお金が平成25年の決算ですけども143億円、利息だけでも約1億円払っています。親和銀行が32億円利息が約2,000万円、約借入金にしても111億円の差がございます。もし、市が縁故債関係で支援ができるということであれば、ここに縁故債ですからやはり入札をするんですよ。借り入れる金額に対して利率によって入札するわけですが、ここに入札の資料がございます。

近年の分からいきますと平成24年がありますが、これは十八、親和が同じ利率ですよ、借入れ金額16億円、そして決定が十八銀行、土木の業者の方は入札で同じ金額ならばくじを引いたりするんですよ、それが基本的なルールですが、これどういうわけか同じ利率でも十八銀行、16億円ですね。そして次が24年の5月ですけども同じく、同じ利率の入札で一緒です。これまた12億円は十八銀行、この同じ利率でも十八銀行に行くわけですよ。

そして、近年行われた分が、これが非常におもしろいんですが、同じ利率で入札が行われて、十八さんが20億円、そして親和さんが9億円、かなりの差があるわけですよ。それで、市が

もし支援できるとすればこういうふうな不公平な入札ではなくて、例えば第一に同じ利率が出たときにはくじを引かせるとか、そしてこのように同じ利率のときに、先ほど言いましたように十八が20億円、親和が9億円というこういう大きい差をつけるんじゃないかと、同じ率で、過疎債ですから、同じ利率なんですから、大きく差をつけるんじゃないかと、同じ按分でということも一つの銀行を残すというふうなことにもつながるじゃないですか。こういう支援ができるんじゃないですかね。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、建設業の入札と比較をされてのお話がありました。そちらの入札というのは一般競争入札であったり、指名競争入札、そういう類いのものにつきましてはくじということが地方自治法の施行令において明文化をされております。ただし、この問題につきましてはくじということでの明文化がされておられません。そういう意味においてそういうことも、今おっしゃられたことも当てはまらない部分もあろうかと思えます。

同等と、同じ率だからということですかね。

○議員（13番 小宮 教義君） 同じ率だから。

○市長（財部 能成君） はいはい。わかりました。同じ率、小数点3位まで同じ率に続くということ、ここ数年ですね。私は、そこのほうが問題なんじゃないかというふうに問題視を、私自身はそこに着目を逆にしているつもりです。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 私は、市のほうとしても信用できれば、さっき言ったようにこういう入札の結果が実際なんですから、いろいろな法的な問題があるかもしれないが、しかしさっき言ったようにあまりにも十八のほうが高額が高いんじゃないかと。こういう大きい差があるわけですから、だから今後その差を半分を持っていくように、半分ぐらいできるように、それは市のほうでできるわけですから、その辺のところを検討してみたらどうですかということをおっしゃる。わかりました。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 申しわけございません。そういう意味において、それぞれの銀行の経営の状況とかいうのも、私どもも考えていかなくてはいけないと思っています。半期ごとに決算報告に役員の方と支店長さんがそれぞれお見えです。そういう状況を聞きながら、こちらも考えていきたいと思っておりますし、以前から、ビッグバンの時代からありましたそのB I S規制等がありますね、そういう問題というのが今会社の信用度、今冒頭ムーディーズの話をされましたけれども、銀行におけるB I Sの問題等々も斟酌しながら、私どもも考えていかなくてはいけない。

当然、先ほど向こうで答弁させていただきましたが、銀行の再編というのはやはり今でもあり

ます。また、いつペイオフの問題が起こるかわからない。そういう中で、どこにどのような形で本場で預けていくか、またはしくは起債を受けてもらうかということは十分に考えて市民の皆様以後で不合理が起こらないような形を、私どもは常に考えていくことが求められているというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） そういうのはいろいろあるんでしょうけども、私が言わんとするところはするように差があるんだから、縮めるように検討をするのか、検討するんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 既に24年度までの起債、特に起債に関しましては指定金融機関のほうにお願いをしてきたところでございます。先ほど言いましたような銀行業界の環境ということも考え、25年度の部分につきましてはその割合というものをやはり変えていかざるを得ないということで、組み立てをしておるところであります。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） その割合を変えていかざるを得ないということであれば、やはり均等になるように、2つの銀行が残れるようにさらに検討をお願いしたいと思います。

時間がございませんけれども、病院の問題でございしますが、和白に決まる前に今までは地域医療協会と申しますか、そちらのほうでの協議だと、個々にしていただくというお話を以前からし、担当の方も対馬に何回かおいでいただいておりますが、以前の、和白に決まったんですが、以前の地域医療協会、こちらのほうはどうなったんですかね、話は。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 地域医療振興協会の理事長さんのほうには、この9月の発表をする前に私のほうから直接連絡をさせていただきまして、今までのかかわっていただきました御礼と、そしてこういうふうな方向で結論を見出したところなんですということでの報告をさせていただいたところあります。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） じゃあ、以前のやつは今回のものについては対応できなかったということでもいいんですね。

次、今病院が出ておりますけども、この新病院に与える影響についてお尋ねしますが、きのうの一般質問の中で今回のやつは回復期病床が50と一般病床が10だと。その50についての根拠は何かということをお脇本議員のほうから質問があっておりましたが、それについては月に約91人の人が島外に入院をしておることが一つの根拠だという話をされました。

91人というのは、市長も答弁したようにこれは高度医療を受けるために行かれる方がほとん

どなんです。高度医療、ということは2カ月、3カ月それ以上にわたって入院をするような状況が一般的です。だから、この91人とされる根拠はまずもってこの回復期病床については成り立たないと理解しておるんですが、どうでしょうか。それが一つ。

それと、この島内、島内において回復期病床に対する対象者がいかほどおるのか、それについてもお尋ねします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、50が成り立たないというふうなお話がありました。私どもが、池友会もしくは巨樹の会ですね、こちらとの話をしている中では島外に入院をされている方が630名、年間いらっしゃいまして、それからリハビリテーション等回復期の対象者というのが304人、年間いらっしゃると。これは、島外の分を拾い出しをした部分でございます。そういうふうに報告を向こうのほうからも聞いております。

これらの方を仮にもう、小宮議員はよく御存じですが、病状によって回復期の病棟の場合の入院日数はそれぞれ限度が違う、180日とか60日とかいろんな差がありますが、仮に短いほうの60日で設定をしていった場合、どれだけ病床がいるのかということになりますと、島外の人、島外に行っている人だけを考えても55床いるということです。

それと、後段におっしゃられた島内の方たちのリハつきの入院と申しますか、それが必要な方たちはやはり似た数字ですけども、300人を超える、300たしか9人いらっしゃると私どもは聞いております。この309人の方が先ほど言いました同じ60日という一番短い期間で入院をされた場合、どれだけベッド数があるかといった場合、これがやはり56.4床、年間必要とするというふうなことになります。56.4と55は全く島内と島外の必要とする人たちの数ですから違う数です。

そういう意味において、島外の方たちが全て高度医療と。確かに、高度医療でされる方、それから今拾い出しをした304っていう数字につきましては、高度医療を受けた後のリハの部分が必要として入院が必要な方の数字を拾い出しをしたものであります。だから、高度医療の段階、第1の部分の済んでの、急性期が済んでの段階の人を拾い出した数字で、私どもは物事の組み立てをしていただいているというふうに理解をしております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 島外にリハビリ対象者としては300人ほどおると申すよね。それ、基本的には今、回復期というのは今の計画は島外の方を基本ということになるわけですよね。それはどうなんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 島外に流出をしている方が4割、これはリハのことではなく通常の部分

で4割いらっしやると。これをどのように、島内にとどめるか、島内でどれだけ完結できるか。確かに高度医療の部分について、この島内で最初の段階から完結をしていくというのは不可能なことだと思っております。しかし、2次的な部分における、その回復期の問題について今の222床のベッドでその回復期というのは病院企業団のほうも組み立てをされておりました。

そういう意味において、この回復期の部分は島内の一部の方たちも、そして島外の方たちがどうやってこの親族がいる島の中で回復期を迎える。高度は向こうであっても回復期をこちらで、60日なり長ければ100何十日という期間を過ごすということを設定をして、この50床という組み立てになっておるところであります。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） ということは、島内の方も含めるということですよ。基本的には、でも、それによって新しくできるこのいつはら新病院、いつはらじゃなくて、新しい病院ですね、ここは市長も御案内のとおり一般病床は222ですよ。その中において、このリハビリとか亜急性期っていうんですかね、この分が予定としては20、そして法の改正によってそれがなくなって、きのう話がありました、地域包括ケアというふうになるんですよ。それで、地域包括ケアの分がそれを20をなくした分と全体的に50床を今度新しい病院は考えておるわけですよ。そうすると、病院の経営自体にもかなり大きい影響を及ぼすんじゃないんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この私が発表をさせていただいた段階において、地域包括ケアの問題については、ことしの、月は明確ではありませんが、たしか6月か7月かぐらいだったと思いますが、そのころに病院のほうがい出された話であります。病院もいたし方ない部分があると思います。国の方向性がそのあたりからまた五月雨式に出てくるものですから、その方向性を徐々に変えていくということで、私どもはその前の段階の対馬の医療需要、そして亜急性期はなくなる、そして急性期とか、そこで物事を組み立てていく、222というふうに理解を私どもはしております。

そういう中、先ほど申しましたように、島外に流出をされている回復期で向こうお過ごしになってある方たちを、この島内に呼び戻すことが私どもの国保の金が外に逃げないとかいろんな問題、そして安心して医療が受けられるとか、そちらを組み立てていくということになるろうかと思っております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） この病院企業団の経営等もございますけども、平成25年の決算では1億3,000万円の赤字なんです。報告ございましたけども。

今回、63床減りますけども、その減ることによって交付税関係が約8,450万円減ります。63床なくすことによって。そして、和白病院が来て外来もするという事ですから、医療収入についてはいづらはら病院を見ると収入は30億円、そのうちの10億円が外来ですよ。外来のほとんどの方はとは言わないけれども、ある程度の方は和白病院がくればそこに行くようになります。そうすると、それが一番いいんですけどね、市民にとっては。でも、その10億円のうちの半分ぐらいは来ると思いますよ。6億円の病院の収入減になると思います。そうすると、かなり赤字が膨らんでくるんですが、そのような状態でもいいんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 交付税のお話がありました。普通交付税、それから特別交付税にそれぞれこの病床数の削減によっての影響というのは当然出てくると思っております。ただし、平成33年度までですかね。この普通交付税の分については、公立病院の病床数の減ということのクリアを受けて、私は普通交付税の4,000数百万ですか、これについては続けていただけるものと思っております。

また、少なくともこの問題につきましては、13番議員が今そのようにおっしゃいますけども、昨年12月18日、皆様方の決議を受け、そしていづらはら病院跡に、適切な言葉かどうかわかりませんが統合病院、統合病院の支援的役割として病院機能を併設した介護施設の整備を求めていくというふうな決議をいただいたところでもあります。それらの方向性の中で、統合病院の支援的機能という部分、そこについては向こうから入ってくる意思を表明していただいております法人も基幹病院はあくまでも統合病院であり、そしてそこを保管する形で自分たちの組み立てはやっていきたいという意思はきちんと私どもには伝えていただいているところでもあります。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） では、ほかの点でお尋ねしますけども、前回の9月の定例議会のときに入江議員の質問について何点かお尋ねしますが、入江議員の質問に対して病院企業団は直接的には、というのは冒頭に和白病院が来るんだという説明をした後ですからね、この一般質問というのは。だから、人間で言えば物事が起きた後は素直な気持ちになりますから、そのほうで捉えるほうが本心があるかと思うんですが、その後の分ですからね。

企業団病院は、直接的にはこの医療法30条の特例の問題には直接的には関係ないと思うというふうな発言をしておるんですね。合意した後にですよ。直接的には関係ないという話だけれども、きのうの一般質問もそうですけども、病院企業団とは同意をしなければいけないという話をしておりますよね。非常に話が食い違うんですが、どちらのほうがいいんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 少なくとも病院企業団とこの問題について、法人を入れる入れないにつ

いてのことに关しまして、法的な問題というのは全くありませんし、病院が、病院企業団が示しました方向性というのが以前出たわけですね。それと、私どもの市民の思いは違う方向にありますので、病院企業団にその方向性を進めることについての話は直接的には必要ないのではないか。ただし、基準病床の医療法の特例で物事をやるにあたって、こういう形で法人がこういうふうな補完的なことをやろうとする、そのときの連携をどうしていくかということについての連携のための協議と同意というのはいただかないといけないというふうに、私は理解はしております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） この特例措置は、病院との連携が主になるんですよ。これという、この30条とは全く関係がないんだという話をしてあるけれども、実際は病院の同意がなければ前に進まないじゃないですか。そういった意味で間違った発言をしておるならば、間違った発言をしておると思いますよ。陳謝なり、必要があるんじゃないですか。それはいい。

そして、この計画ですけれども、委員長の報告にもございましたが、この来年の2月に医療審議会があるそうですよ。そこで審議をするように、間に合うように今打ち合わせをしておるということですが、この問題については昨年12月に市長のほうに県に行かれたときに6項目に及ぶ指摘事項、打ち合わせ事項の提示があったと思いますが、その辺の整理はどのようにされておるのか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 昨日もこの場で答弁させていただきましたが、県との打ち合わせを随時行っておるということでございます。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 昨年12月に示した県の事項の中で、6項目ございますが、この6項目の中の2と4、その根拠関係、それについての整備はどうなっているんですか。そういうところを片付かなければ、2月までには医療審議会に資料を上げることができないんじゃないですか。基本としては、この2月に審議会に資料が上がらなければ物事は成就できないわけですが、リミットとしては2月と、来年の2月でこの問題は解決するというふうな理解でよろしいですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、県との協議を事務方のほうも鋭意努力をしてくれておりますし、汗を流してくれております。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 先ほど言った6項目の中の大きい4点、5点、この整理ができなければ県も国のほうに協議ができないんですよ。その辺の整理はできておるのかということ

すよ。それがなければ県に協議できんじゃないですか、国に。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国または県の医療審議会に、話を上げていくための協議をずっと今職員
のほうはやっておるという話でございます。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） 県の協議を始めたのはごく最近ですよ。私が県のほう、そして
企業団の確認をしたけども、10月の16日まではこの打ち合わせは1回もなかったんだという
話が出ていますよ。1年前に提示されたものが、やがて1年になるんだけど、その6項目に
ついての協議がなされていないじゃないですか。

2月に医療審議会があるけれども、そこに上げることができなくなれば病院は、問題はそれで
決定をすると、資料が上がらないんだから、1年前のやつが。そういう考えでよろしいんですか。
そこで、病院を誘致するか誘致しないかを定めるんじゃないんですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 12月にこちらに県のほうが示されたものが、協議が遅いじゃないかと
いう話であります。当然ながら冒頭言いましたように、統合病院と連携する病院のあり方とか
いうこともきちんと私どもも考えながら、そして入ってくる法人の方向性というのも斟酌しなが
らやっていかなくてはいけない問題であります。私ども、市が独自でこれは動けるような項目で
はないというふうに、私どもは考えておりました。

○議長（堀江 政武君） 13番、小宮教義君。

○議員（13番 小宮 教義君） それはそうですよ。市が単独にできたりしたら医療法なんか要
りませんよ。私がこの特例については提案させていただきましたけれども、この特例の中には業
務の提携というのがあるんですよ。だから、基本的に間違っているのは、さきに和白を決めるん
じゃなくて、企業団と県とで連携のあり方、病床のあり方をまず検討して、そしてこういう病床
が必要だというこちらの中において、じゃあこの病院にどうかと、いや違うと、当初の地域医療
協会のほうがいいんじゃないかという選択をするのが常識なんですよ。先にそれをしなければ、
和白病院の合意も何も関係ないじゃないですか。医療審議会に上がって、そこで認めてもらわ
ないわけですから。物事の進め方が全く違う。だから、さっき言ったように1年前の県の指
摘事項が作成されないんですよ。そうなんですよ。

だから、結果的には来年2月が医療審議会の特定に関する審議がございます。そこに書類を上
げなければできないわけですから、もし上げることができないならば和白病院のことはなしとい
うふうな考えでいいんじゃないですか。

○議長（堀江 政武君） 時間になりましたので、簡明にお願いします。答弁ありますか。

- 議員（13番 小宮 教義君） 答弁を求めます。2月をどうするのか、基準にするのか。
- 議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。
- 市長（財部 能成君） 先ほどから何度も申し上げておりますが、県との協議というのが今の私どもの当面汗をかかなくてはいけないことだということで、職員も私もそちらの方向で動いているというふうに御理解をいただければと思います。
- 議員（13番 小宮 教義君） 最後いいですか。
- 議長（堀江 政武君） 簡明に簡単をお願いします。
- 議員（13番 小宮 教義君） 要するに、来年2月が医療審議会のこの特定に関する審議がございます。これは医療計画の変更ではございませんから、この特例が適合しているかどうかを医療審議会が図るんですよ。だから、来年の2月にその書類がそろって提出できなければ、この問題はなしという方でよろしいですね。
- 議長（堀江 政武君） これで、小宮教義君の質問は終わりました。
- 議員（13番 小宮 教義君） 最後にある。
- 議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。
- 市長（財部 能成君） そのなしでいいですねでは、市民の皆様のお気持ちと、そして皆様方の決議されたことが成就できないというふうに私は考えております。
- 議長（堀江 政武君） もう時間ですので。
- 議員（13番 小宮 教義君） 市民が一番来てほしいんですよ。しかし、先が見えないことをだらだらやるよりも、もし和音が来るならば診療所だけでもいいじゃないですか。診療だけでもオープンできるように方向性を変えるべきだと言っているんですよ。
- 以上です。

○議長（堀江 政武君） これで、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時04分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

9番、長信義君。

○議員（9番 長 信義君） 9番議員、新政会の長信義でございます。私は、さきに通告をしておりました大きくは2点について質問をしたいと思いますが、1点目の質問につきましては、先日、同僚の11番議員から質問がっておりますので、極力重複は避けたいと思いますが、

一部どうしても昨日の市長の答弁の中で再確認の意味も含めましてお尋ねをしておきたいことがありますので、重複の部分はお許しをいただきたいというふうに思います。

それでは、まず第1点目の韓国人による再度の仏像盗難事件についての市長の見解をお尋ねをいたします。

2012年10月に発生した県指定有形文化財と国指定の重要文化財2体の盗難事件において、現在まで返還が実現しない中、今回再び盗難事件が発生をいたしました。返還要請が行われているさなかの事件であり、島民の韓国人に対する感情も一段と厳しいものとなっております。今後の防止対策並びに管理体制について、市長の考え方を伺いをいたします。

この問題につきましては、数点質問をさせていただきますので御答弁をお願いをいたします。

まず、1点目は文化財が保存されている地域の中でも過疎化、高齢化また住職がほかの寺との兼務をされているなど、不在の地域も多くあります。地区の住民だけでは重要な文化財は管理できないという声をよく耳にいたします。盗難被害を防ぐための防犯設備設置費用の一部改正で50%から80%に補助率を変えたというふうな説明もあっておりますが、たび重なる盗難事件に対しどのように対処をしようと考えておられるかお尋ねをいたします。

また、あわせて当初予算と今回の12月補正が出ておりますが、どの程度の設置を考えているのか、昨日の説明の中では24年度で3体、25年度3体、そして26年度は現在までの申請が1件——済みません。3体じゃなくて3件ですね。現在までの申請が1件だというふうな説明だったと思います。予算は当初予算で約210万円、補正で今回400万円が提案をされております。

設置箇所につきましては、答弁は要りません。これは、一部秘密にしなければならない部分もあるかと思っておりますので、設置の場所については答弁は要りませんが、設置を何箇所される予定なのか。また、この今回の補正で上がっております400万円は既に設置の箇所が決定をされているのかもあわせてお尋ねをいたします。

次に、昨日の11番議員の質問の中で、市長の一部答弁がありましたけども、下村文部科学大臣は11月29日、日中韓文化担当大臣会合の出席のため来日をされております韓国の金鍾徳文化体育観光大臣と横浜市内で会談をされた折、2012年に対馬市から盗まれた仏像2体の返還を改めて要請をされております。それは、長年信仰の対象として大切に保存されてきたものであるということを訴えられております。また、下村大臣は昨年訪韓をされた、やはりこの日中韓文化担当大臣の会合の折にもその旨を話されたというふうに聞いております。

しかしながら、一番問題はこの下村大臣の返還要請に対し、韓国の金鍾徳文化体育観光大臣は、その問題だけでなく日本側が韓国から不法に搬出した文化財も議論しなければならないというふうに話されております。これは、このことは今現在2012年に盗難事件にあった物財2体は現

在韓国政府のほうで管理保管をされておるといふふうに思いますが、この韓国の担当大臣がこのような発言をされるということは、韓国政府の考え方ではないのだろうかといふふうな気もいたします。

韓国は、常に統治時代などに朝鮮半島から日本に渡った文化財の返還などについてはいろんなことを言ってきております。したがって、この件についても市長の考え方をお伺いをしたいといふふうに思います。

それから、3点目ですけれども、今現在12月定例県議会が始まっております。この県議会の前の中村知事が11月27日定例記者会見で、この韓国人による相次いで盗まれた事件についてコメントをされております。このことについても、先日少し市長が触れられたような気がします。

箇条書き的に申し上げますと、しっかりした対策を講じる必要がある。寺社への管理はやはり限界が感じられる。地域住民の了解を前提に公的な資料機関なり、きちんとお預かりできる体制を築くといふふうに述べられております。

その中で、やはり公的な資料館ということになりますと、当然今計画中であります厳原町に新たに建設予定の博物館構想の中に、保管の機能もあわせて整備するということが前提で話されたんではなかろうかなといふふうに思いますが、少しきのうの市長の11番議員の答弁を聞いておりますと触れられましたが、今後やはりこの件につきましては県と前向きな協議をする必要があると。

当然これは文化財そのものがそれぞれの地域の、関係地域の信仰の対象であるということを理解する中で、やはりこのような事件が相次いで起こるといふことになると、一括して管理保管を行うと。いわば寄託をお願いをします。そのかわりその地域には相応のレプリカなりの対応も考えるといふふうなことで、関係所有者あるいは管理者関係地区の住民などと前向きな話を進めていかなければならないといふふうに思いますが、この件についてお尋ねをいたします。

また、同じようにこの12月定例県議会の坂本智徳議員の一般質問につきましても、この質問の内容は対馬市の盗難仏像が韓国から返還されない中で、再び盗難事件が起きたことに対する対策を尋ねてあります。池松教育長は、防犯対策を強化してきたが限界を感じると。各地の文化財を資料館に寄託してもらって一括して管理する方法もあるが、住民の信仰の対象でもあるので難しい面もあると。市と協議をし、あるいは警察とも連携しながら再発防止に取り組みたいといふふうな答弁をなされております。これはまさに知事と同じ答弁であります。このように、教育長、知事、やはり県側はその様な考え方を持っておられますので、ぜひこの件についても前向きな検討をお願いをいたします。

次に、今回のこの再度の窃盗事件を受けまして、少し視点を変えまして、今朝鮮通信使をユネスコ記憶遺産登録に向けて動きがっております。この記憶遺産登録に向けましては日韓関係の

冷え込みや、この仏像盗難問題のユネスコの条約違反という矛盾から、両国の申請ではなくNP
O法人朝鮮通信使緑地連絡協議会と釜山文化財団が民間レベルで歩調をあわせて、日韓共同で登
録申請に向けて取り組みが行われておりますが、今回のこの再度の仏像盗難事件に対し、このユ
ネスコ記憶遺産登録に向けて影響はないものか、市長の見解をお伺いをいたします。

また、来年は日韓国交正常化50周年の記念の年でもあります。同じように、この仏像の盗難
問題に対し影響はないか、市長のお考えをお伺いをいたします。

最後に、この問題、先日も少し触れられましたが、対馬市の国際交流諮問大使を今鄭永鎬、姜
南周両先生にお願いをしております。鄭永鎬先生の件につきましては、鄭永鎬先生との話の一部
を答弁でお話をいただきましたが、もう少し諮問大使でもあられますこの韓国側の両先生のどの
ようなお願いをし、どのような話し合いを進めているのかをお伺いをいたします。

次に、2点目ですけれども、エボラ出血熱に対する対馬市の対応についてお伺いをいたします。

世界保健機関WHOは、11月29日までにエボラ出血熱の感染が深刻な西アフリカのリベリ
ア、シエラレオネ、ギニアの3カ国での感染者、これは疑い例も含まれますが、この数字は日々変
わりますので定かではありませんが、1万6,169人に達し、うち死者が6,928人に上った
と発表されております。感染者数が増加している中で、年間18万人を超える韓国人観光客が来
島している対馬市において、国県など関係機関とどのような協議がされ、対策を講じておられる
のかお伺いをいたします。

この件につきましては、今現在まだ島のほうで感染者が発生をしておるわけではありませ
んで、深く突っ込むつもりはありません。ただ、今県のほうでもあるいは検疫所のほうでもエボ
ラ出血熱疑い患者が発生した場合の、これは県ですけれども長崎県の対応フォローだとか、ある
いはエボラ出血に関する連絡会議等も設置をされ、既に対応されておるといふうに伺って
おります。

しかしながら、今この対馬には、特にソウルからですけれども航空機での入国が
あっております。そしてまた、船では厳原港及び比田勝港の入港が3隻により行
われているという状況であります。そしてまた、厳原港及び比田勝港には貨物船も
入港しております。貨物船が入港した場合は、エボラ出血熱が発生を
している国を寄航して入港した場合の対応が必要になってくるんだらうとい
うふうに思っております。

このことにつきましては、冒頭申しましたように今現在どうだということではあり
ませんので、市民に向けて今関係機関とどのような対策をとり、対応しておるとい
うことを明確にお示しをしていただきたいというふうに思います。

あとの分につきましては、また一問一答でお願いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 長議員の質問に答えさせていただきます。

第1点目の仏像盗難事件についてでございました。昨日、上野議員の質問もこれについてはございました。防犯対策ということで、2年前の盗難事件それが韓国本土に行っていたということで、大変な憤りを感じたわけですが、さらに今回、まだその品物が要請をすれど返ってきていない中で、私どもの気持ちというのを逆なでするような事件だったというふうに私は思っております。

片や、この49.5キロという距離の中で、私どもは交流を密にやっていくことを島の方向性に据えておるわけでして、その限りなく多くの方たちがそういう気持ちでいる中で、ほんの一握りの方がこういうことに事件を起こされるということに大変悲しい思いをしております。今後のこの防止対策につきましては、昨日の上野議員の質問に答えたとおりであります。島民の共有の財産であるという視点に立って、観点に立って2年前交付要綱を改正をして対応をしております。

今回、事件が11月24日でしたか、それを受けまして急遽今回の12月の定例会に出す補正予算の中に追加をさせていただいたところでもあります。その今回の補正で上げている件数については24年、そして以降予算化しております、所有者の皆さんに防犯体制の強化をお願いをしてきて、件数としてはお願いはして、何件とこうふうにきたわけですが、まだ残りの部分がありました。ことしについては、1件が話がついてしていくことで進めておった矢先の事件であります。残りの部分について、今回急遽補正計上をさせていただいたところでもあります。細かな件数については、担当の教育部長のほうから件数については答えさせたいと思います。どうかお許しいただければと思います。

これに関しまして、11月の翌日25日ですか、翌日の、前の日の夜から連絡はとっていたんですが、知事のほうとも話をさせていただきました。そして、翌日の朝、電話がかかってきましてこういう問題に、また再度こういうことが起こったことに対して、どのような対応を県としてという話をさせていただいたところでもあります。

その後、11月27日だったと思いますが、知事のほうの記者会見においてたびたびこのようなことが起こることを考えると、一元管理というふうなことも考えなくてはいけない。また、池松教育長の議会での答弁のお話でございました。その知事とお話の中でも、当然所有者の問題、お気持ちということをどのようにしていけばよいかということに十分心を、気持ちを砕いていかないといけないということで意見の一致を見たところでもあります。

いずれにしても、一元管理イコール博物館と、博物館建設というふうには相ならない部分もあろうかと思いますが、今記者会見の中でも知事が申し上げられたのが、対馬市のほうと博物館建設について事務方で今協議を進めている段階であると。今、この場で博物館ということで発表にはまだ細部が詰められてない部分があるからという話もありました。私どもであれば、

その博物館建設というこれだけの文化財がたくさんある島でございますので、どうかして博物館の建設にもこぎつけたいと思っておりますが、今の文化財の盗難という問題にも毅然として向かっていかなくてはなりませんし、その後の管理のあり方というのもしっかり博物館建設にあわせ考えていきたいと思っております。

この問題についての、ソウルと釜山にお住まいの私どもの国際諮問大使への市の依頼といえますか、どういう働きかけをというふうなお話だったと思います。これについては、24日、25日ですか、ちょっと日付は定かではありませんが、当日でないことは確かです。私もちょっと出張の移動で、飛行機の中だったものですからできなかったということもありますが、お二人の大使の特にこの文化財に造詣の深いソウルの鄭永鎬先生のほうに、私のほうは次なる動きをしていただきたいという思いで電話をこちらのほうからさせていただきました。

そうしますと、鄭永鎬先生のほうはもう既に財部さん、申しわけないと。こういうことがまた起こったと。しかし、もう既に自分としてはこういう動きをしましたと。マスコミ、テレビ、新聞、そして文化財庁ですか、そちらのほうにもきちんとした動きは自分自身はもう動いたよというふうなお話があったものですから、私は逆にそういう御依頼をしようと思っておりましたけども、先にそちらの答えが返ってきたところでもあります。これからもそういう対馬市の考え方というのは、十分に自分はわかっている。だから、しっかりとやっていきますというふうなお話をいただいたところでもあります。

ずっと、この仏像の盗難問題についての韓国側の大臣の下村大臣の投げかけに対しての向こうからの今度はお話、日本へ流出した文化財の問題についてどう思うかというお話がありました。実を申しますと、二、三年前でしたか、朝鮮隆王朝の王朝儀軌でしたか、李朝王朝儀軌でしたか、日本のほうから返還をしたことがございました。私はそのときに長崎県の文化財担当の課を通じて外務省のほうにお願いをしたことは、私どもの宗家文書が韓国のほうにそれなりにある。この宗家文書については、東大、慶応とか、いろんなところ数箇所に分かれておるわけですが、当然一番多いのは対馬ですけども、そういうこととの交換ということをしつかりと長崎県として国として言ってほしいという話を、実はそのときさせていただいた経緯も今思い出したところでございます。

ユネスコの一定のルールというのもある中で、何ゆえこのような過去において流出した文化財の調査という提案があるのかが、私には腑に落ちない部分がございます。それと、ユネスコのお話もございました。記憶遺産、また来年50周年を迎える日韓のこの問題に対して、この盗難事件がどういふ影響を及ぼすのかというお話もございました。これについては全くわかりませんが、少なくともこのような事件が起こることで、多くの方たちの気持ちというのがなえたり後退したりするわけでございますので、それぞれのといいますか、特に韓国政府のほうにおかれてはこの

ようなことが二度と起こらないような、政府としての対応をしていただきたいというふうな思いでいっぱいあります。

次に、2点目でございますが、エボラ出血熱に対する対馬市の対応についてお答えさせていただきます。

このエボラ出血熱については、もうニュース等で市民の皆様は十分に御存じな部分がありますが、過去においても1970年以降、中央アフリカ諸国でしばしば流行が確認をされております。今回、西アフリカでの流行が確認をされたのは初めてだということでもあります。

また、感染経路についてはエボラウイルスに感染し症状が出ている患者の血液とか分泌物、それから吐物等の体液等に汚染された注射針などの物質に触れた際に、ウイルスが傷口や粘膜から侵入することで感染をするものであります。症状のない患者からは感染をしませんし、インフルエンザのような空気感染ということもありません。また、西アフリカの流行地ではエボラウイルスに感染したコウモリ、大コウモリとか猿などの野生生物の死体や生肉などに直接接触した人が感染したことで、エボラウイルスが自然界から人間社会に持ち込まれているというふうに言われております。

厚生省検疫所が、この問題については一週間ごとに更新をし、公表をしております。WHO世界保健機関の発表状況では、12月4日の発表によりますと11月30日現在での患者数は1万7,145人、死者数は6,070人となって、死亡率といいますか、致死率というのは72%に及ぶものです。また、入院患者は60%はギニア、シエラレオネ、リベリアの3カ国で占めております。

3カ国以外でも西アフリカの状況ですが、ナイジェリア、セネガルでも感染死亡例がありましたが、10月19日、20日にそれぞれ終息が宣言をされております。そして、マリという国が現在死亡者数6名を含む8名の感染者の報告があっております。西アフリカ以外ではスペインで1名の患者、医療従事者の方でしたけども、がございました。ウイルスが陰性となり、今回終息が宣言をされました。また、アメリカ合衆国では死亡者1名を含む4名の感染がありましたが、3名もウイルスが陰性となり退院をされております。また、アジアでの感染報告はあっておりません。予防としてワクチンが存在をしておりませんし、また特別な治療法もないため、発熱とか嘔吐とか下痢などへの対処療法しか今現在はないということです。

次に、対馬市における対応でございますが、この問題について長崎県が10月24日付の厚生省結核感染症課長通知に基づいて行政機関、医療機関における基本的な対応を示すマニュアルを11月29日付で作成をしております。以下、水際である検疫所での業務から患者を医療機関に搬送するまでの要点を説明をさせていただきます。

まず、検疫所での対応の問題ですが、仮に韓国からの旅行者が増加しているこの対馬において

は、まず国内への感染者の入り込みを防止することが第一であり、万一発生した場合も、蔓延防止のために関係機関が連携し、迅速かつ的確な対応が重要であります。

まず、入り込みの防止であります。検疫所での対策強化が上げられます。このことについては、本年11月20日付で厚生労働省検疫業務管理室より、韓国からの客船に対して厳原港及び比田勝港での入国者の中にエボラ出血熱発生国から乗り継ぎ等の乗客を発見、確認するよう支持が出され、これにより検疫所は11月の22日より厳原、比田勝港旅客ターミナルでサーモグラフィによる体温測定を始めました。

また、流行国滞在者の把握等は船内において旅行代理店等が実施し、その報告書を提出してもらい、報告により過去21日以内の滞在が確認された場合は、対象者に21日間、1日2回の健康状態の確認をしていただき、その状況を検疫所に報告していただくようになっております。エボラ出血熱では、市内の医療機関を受診することはありませんので、現状では対馬市が直接かわることはありません。

市の役割としては、日ごろより疾患についての正しい知識の啓発、特に感染経路等については繰り返し市民の皆様にお伝えをし、風評被害を起こさないことになろうかと存じます。このことにつきましては、12月の市報に掲載を予定しております。また、検疫、消防、警察、医師会、本市等の関係機関で構成される保健所の感染症対策協議会が12月25日に開催をされ、可能な限りの対策についての協議、情報交換、調整等が図られる予定であります。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 9番、長信義君。

○議員（9番 長 信義君） 短い50分の中ですから、もうあまり時間がなくなりましたが、エボラ熱につきましては12月の広報でも掲載をするということでありまして、かなり詳しく説明をいただきましたのでこの分につきましては一応これで終わりたいと思います。

先ほどの質問をいたしました日中韓の担当大臣の会合の折に話が出ました金鍾徳大臣との件につきましては、やはり私はただ単に一大臣が話をされたのか、要は両国が協議する機関の設置というのを今あらためてそのような提案がされよということですから、今現在2体の仏像は韓国政府が管理保管をされておるといふふうに思いますが、やはり韓国のほうの政府関係者がそのような話をされるということになりますと、非常に危惧するものもあります。したがって、やはりここはもうこれ以上は言いませんけれども、やはり市長も東京に行かれた折には、また文科省あたりにも寄られて真意を確かめるなり、あるいはまたこの件をしっかりと念頭に置いておっていただきたいというふうに思います。

それから、今現在、これは教育委員会が出されました26年度版の教育要覧によりますと、島内の文化財は国指定の文化財が2体、これは仏像だけを言っています。それから、県指定の仏像

関係が9体、それから市の指定が25体、これ私が計算間違えたかわかりませんが、そのような数字になろうかというふうに思います。これは経典などはもちろん除きます。

その中で、お寺で管理をされておるものが15体、これは市の分の25体を言っています。寺で管理をされているのが15体、神社が2体、歴史民族資料館が1体、地区のほうで管理をされておるものが5体、個人が2体と合わせまして25体になろうかというふうに思いますが、問題は先ほどの質問の中でも話をしましたように、この保管されている地区の中でも特に巖原の中のあるお寺では、県指定の文化財が一つのお寺に3体あるというお寺もあります。一度被害に遭いますと大変な被害に遭ってしまうということになります。

今回の場合も、小船越の梅林寺の誕生仏の件でも、これはたまたま住職がやはり発見が早かったということで、国外に出る前に水際で防止ができたというふうなことがあります。こういうことが、これはもう私は考えてみるとこれはまれなことではないかと、特に寺だとか神社とかいうのは人里離れた場所にあるというのが大体多いんじゃないかなというふうに思います。そうすると、その関係地区の住民の目もなかなか行き届かない。そしてなおかつ先ほど申しましたように、地域でもやはり過疎化だ、高齢化だあるいは人口減少だ、住職も不在だというふうな中で、非常に管理は難しいんじゃないかと。

そういった中で、市長が補助率を50%から80%に引き上げましたと言われましても、それは国県市指定の文化財でそれぞれ幾らか負担割合が出てくると思いますので、若干変わるとは思いますけども、いずれにしても10%から20%のその所有者、管理者、いわゆる関係地域の負担が出てくるんじゃないかと。市長は今現在、ことしはもう恐らく20万人と超すであろうという韓国人観光客の流れですが、やはり国際交流だとか、あるいはその地域の経済発展のためにはこれは必要なことだということはいくつもわかります。しかし、あまり適当な言葉ではないかわかりませんが、島民全体がこれを大歓迎しておるというふうにも見えない部分があります。

やはり一部の事業者は潤ってもなかなかそれが全体にどうなのかという部分もありますし、なおかつ市民サイドから見ますとそんなに歓迎をされておるのかなという気もします。ましてや、ある意味交流人口の拡大ということで、交流人口をふやそうとしている一方、その文化財にかかわる関係する地域に対しては、やはり負担を求めるといふのはいかなものかと。確かにそれは税金等の問題がありますので、所有も個人の所有者があり、あるいは管理者があり、いろいろなケースがありますので、なかなかそれを全額投入というのはいかなる面もあるかというふうには思いますが、やはりまた反面それを文化財を管理保存をしていただいている関係者に負担を求めると。

これはわずか10%、わずか20%といってもその関係する方々は、やはり負担は決して少なくはないと。だからやはりこのあたりも、先日11番議員が話をされましたように、やはり少し

根本的に例えば港湾施設の使用料の問題も話をされましたし、そういったことも含めて財源充当が充てる方法がないのか、そのあたりはこれはぜひやはり検討していただければならないというふうに思います。

そして、やはり今回のこの再度の盗難事件を見まして、1回目の2体の仏像が流出をした折には、非常にこの所有権を主張してあったような気がいたします。しかし、今回はこれは記事の一部ですからどうかと思いますけども、やはり対馬は宝の山だと。いわゆる文化財がたくさん島の中にあるんだということです。韓国に持ち込めば愛好家には高値で売れるということで、一部では仏像1体がやはりこの日本円から韓国になりますと5倍から10倍の高値で売れるということになりますと、やはりこういった事件は今後も終息をすることなく当然考えられる。中には韓国でやはりこの窃盗団、窃盗グループは韓国内でもやはりそのような事例もあるやの記事もありました。そういったことで、今後また市長が目標にされております交流人口を20万から30万、40万というふうにふやしていけばいろんな事件が発生することも考えられます。

そういった面につきまして、あまり時間ありませんので、もう総括的に市長の見解をお伺いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田 充君） 長議員さんの質問の中で、26年度の今回の補正406万8,000円を追加計上させていただいております。当初に、210万1,000円計上しておりましたので、この今回の補正が通れば616万9,000円ということになりますけども、26年度1件もう申請の手続を今進めております。そのほかに8件、全体で9件の防犯設備を対策するというところで進めているところです。

この箇所につきましては、市の文化財保護審議会、そして担当職員等々が現地を赴いて、ここが必要だということで今回計上をさせていただいているところでございます。

それと、2年前の盗難を受けまして、平成25年度に対馬市文化財保護ネットワーク関係者連絡会議というのも開いてこれが今、年1回程度ですけどもやはり十分に連絡調整をしながら、年1回とは言わずやはりこの文化財の保護に対しては取り組んでいきたいなと思っています。

それと、このネットワークの中に、今後ですけども郵便局等も入れてもらって、配達の中で見回りをしたらどうかというのも今後の検討として加えているところでございます。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この仏像に関しまして、仏像盗難の問題に関しまして、市民感情もいろいろとあるというふうな先ほどお話がございました。物事を進めていこうとしたら、いろんな意見があろうかとは思いますが、この対馬における未来を見据えたとき、やはりこの隣国と

のおつき合いというのは当然ながらしていかななくてははいけません。そういうとき、今新聞報道なんでしょうか、宝の島だと。容疑者の弁なんでしょうけども、宝の島だというふうには、逆に犯罪をこちらのほうが助長していくようなことでもいけないと、そういうふうな感情をさらに悪くしてしまうということも考えていかななくてはいけないのかなと思っております。

仏像の問題につきましては、確かに何十件という仏像、いろんな仏様がいっぱい、それぞれの地域にございます。そして、無人といいますか、無住のお寺というのもこういう人口減少が激しくなり経営、経営といいますか、和尚様もそこに住むことが不可能になっていっているということが、以前よりも拍車をかけて進んでいるわけでございます。それらを十分に今言われた御意見を等々を勘案をして、物事の今後の防犯のあり方というのを組み立てていきたいというふうに思います。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） 9番、長信義君。

○議員（9番 長 信義君） あまり時間がありませんが、教育委員会、大体説明でわかりましたが、今無人の寺が大体30ぐらい、寺社、寺とはいいません。寺社でしょうけども30ぐらいあろうかというふうな数字を伺っておりますが、やはりそこにもこういった文化財、重要な文化財というのは保管してあるんでしょうか。無人の分、それはどうですか。

○議長（堀江 政武君） 教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田 充君） 無人のお寺にも文化財として保管されているのはあります。ですから、無人の場合であれば結局そこが被害にあったときに地区の人たちにいち早く連絡がとれるような体制づくりとか、先ほど言いましたように定期的に郵便局関係の協力を求めながら見回りをするというのも、今後の検討材料ということで考えております。

○議長（堀江 政武君） 9番、長信義君。

○議員（9番 長 信義君） 無人の寺にも文化財があるという説明ですから、やはり先ほども言いましたように、寺、神社というのは人里離れたところのあるというのが大体一般的です。なおかつ、関係地区もそれぞれの理由によって非常に管理が難しいという面もあります。ぜひこの補助を上手に活用していただいて、そしてやはり関係する地区が安心をしていただけるように、これは先ほどの博物館の中にとというのはこれは今後の問題ですから、当面の問題としてどうするのかということは、やはり防犯設備の充実をしなければならないというふうに思いますので、審議会等のいろんな問題もあろうと思っておりますけども、やはり早期に解決をしていただきたいというふうに思います。

最後になりますけども、市長が今定例会の行政報告の中で、文化財所有者との協議を進め適切な措置を講じてまいりたいというふうに申しておりますので、ぜひやはり関係地区は信仰の象徴でありますので、いろいろ持ち出すというのには課題があろうかというふうに思いますけども、

関係地区が安心をしていただける方法というのもまた模索をしていかなければならない。それは、一つはやはり一括管理の問題も当然視野に入れておかなければならないんじゃないかなというふうに思いますので、今後そのあたりを十分、県関係、地区関係者と協議をしていただきたいというふうに思います。

時間になりましたので、これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、長信義君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩といたします。午後は1時から再開します。

午前11時54分休憩

午後0時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 皆さんこんにちは。清風会、1番議員の春田新一でございます。

市政一般質問に入る前に私の下手な歌を聞いていただきたいというふうに思います。これ私がつくったものですから対馬に合うかどうかというのわかりませんが、世の中はこう変わるというこで、田舎はまちの都市化から人の都市化へというふうになるんじゃないかなというふうに思います。

また、イベントなどで大勢の観客が集まっていました観客から、今から先は顧客へと変わるんじゃないかというふうに思います。また、学校では行く自由から行かない自由へと進むんじゃないかなというふうにも思います。犯罪は、動機犯から気分犯へというふうに分で犯罪を起すというような時代になるんじゃないかなというふうに思います。それから、これが大事なんですが、人間関係は縦横の社会から斜めの社会へと変わるんじゃないか。隣近所のつき合いも経て、斜めへと変わってくるんじゃないかなというふうに思います。

世の中、何が1番変わるかといいますと、我々人間ではなかるかというふうに思います。受信型から発信型へ今までいろんなことを話しながら発信を、受信をしてましたが、今度はただただ発信をするのみになるんじゃないかというふうな、いうふうになるとこう思っております。

また、これもちょっと大事なことなんですが、日本の道徳は恥文化から無恥文化へと変わっていくんじゃないか、文化というものが日本では道徳というのが日本の文化でありましたがこれが薄れて、無恥、なくなるんじゃないかというようなことを考えられます。

先ほどから質問がっております盗難事件もそうだろうというふうに思います。我々、道徳を学校で勉強したときには、人の物をとったらいけないというのが、この道徳で学んだというふうになっております。これが、自然ととっていかれるということは、これは無恥文化ということに

つながっていくんじゃないかというふうに思います。

それから、これも大事なんですが、地域おこしは伝統の継承から、伝統の想像へと変わっていくんじゃないか。いろいろな地域での行事が今まで起こされておりましたが、これも人口減少、少子高齢化のためにつながりがなくなって、思うだけの伝統になっていくんじゃないかというふうに思います。

その中で1番最後ですが、集団の時代から個の時代へと、大きく集団ができて、今までは集団で物事がされとったのが、個々の時代へ個人の時代が変わっていくんじゃないかというふうに思って、この歌の中に質問の中に出てくるというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、今回4項目の市政一般質問をさせていただきます。

まず、1点目でございます。これは、再質問になりますが、比田勝認定こども園の進捗状況ということで、この園の建設につきましては、今年度いっぱい入札の予定であるということもお聞きしております。園については、それいいんですが、ひとつ私が間違っておりますが、県道じゃなくて国道、国道から中央橋というところを通して今度新しくできるこども園までの道路整備、中央橋も含めた道路整備というのはどのようになっているかお尋ねをいたします。

それから、もう園建設が始まったわけですからこれももう遅いですが、園建設にあたり、教育委員会、こども未来課の担当部署では、今ある旧園の今ある園との現園との先生方とのすり合わせ、打ち合わせ、足を運んで現園まで行かれたのか。それで設計がされたのかということをお尋ねいたします。

それから、これはこども園が開園をしてからのことではありますが、開園後の旧園のあり方、跡利用ということで比田勝幼稚園につきましては、非常に老朽化をしております、木造でも古い建物であります。それとまた、土地の借地がありますので、当然もう更地に返されるんだろうというふうに思いますが、あとの残りをどのような跡利用をされるのかということで、お尋ねをいたします。

2項目めですが、島おこし協働隊についてということで、この島おこし協働隊、23年度から事業が総務省の事業で行われております。この事業の3年間の経過についてお尋ねをいたします。

また2点目で、その経過を踏まえて、さらなる事業をどのように展開されるのか、ジャンプをされるのかということをお尋ねいたします。

3項目めでございます。市道、佐保田線の道路改良についてということで、これは豊玉町でございますが、私のほうで質問をさせていただきます。

皆さん御存じのように、卯麦から佐保まではハトロキトンネルが開通しまして、県道も改良がだいぶ進んでおります。佐保のこの入り口、県道から佐保とのくびれと言いますか、入り込みが

標識もなく、また縦断勾配がついて入り込みがしにくい、そういうような状況で結びつけというものをきちんとしていかなければいけないんじゃないかなというふうに思って質問をさせていただきます。

また、皆さんも御存じのように、もう佐保から志多浦の中間、海岸付近に今度新しく中部クリーンセンターというのが建設をされました。ここまでの佐保からここまでの道路の、非常に狭い、集落の中は特に狭いで、クリーンセンターですから衛生車が運搬をするわけですが、非常に離合ができないような状況のところもあります。

また、この集落を過ぎた頂上には、縦断、横断の非常に険しい道路というようなところも見受けられ、路肩も弱く非常に走りづらいというふうに私は捉えております。

また、田からクリーンセンターまで、田から小綱小学校までは、ある程度トンネルもできて改良も進んでおりますが、県国道から他の集落の一部が、まだ未改良のままでございます。県との絡み、そういうものもあって進んでないというふうには思いますが、そこら辺の事業がどのくらいで落ち着くのかということも、お尋ねをいたします。

4項目めです。交通安全協会についてということで、これは、交通安全協会は任意団体でございます。もともとは、下県地区交通安全協会、上県地区交通安全協会として設立を先輩方がされたんじゃないかろうかというふうに思います。

今は、南地区交通安全協会、北は北地区交通安全協会ということで、警察署に1つずつの交通安全協会が設置をされております。南地区交通安全協会の歴史を振り返りますと57年間ということで、設立をして57年間続いているわけでありまして。

その中で、支部の団体が5団体ということで、5団体は各町5団体ということで、あとは地域における支部は集落の中でいっぱいあるということでございます。

北地区につきましても、昭和44年に設立をされて現在まで43年間、これは北地区は16支部ということで、各地域の支部が団体となっております。

そういうことで、この2つの協会をどうしても補助金で賄いますので大変難しいということで、合併はどうでしょうかという話の中で、やはり市民あるいは免許所有者の利便性を図るために82キロという距離の中を、どうしてできるのかというようないろんな問題の中で、やはり合併は避けたほうがいいんじゃないかというような意見も出されているようにあります。

そこら辺について、行政の考え方をお尋ねをいたします。

以上4項目、ちょっと多いんですが、答弁のほうよろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 春田議員の質問に答えさせていただきます。

1点目の認定こども園にかかる国道から園までの道路の整備計画について、春田議員のおっし

やられるように、本体のほうについては物事が進もうとしております。こういう中、そこに至るまでの道路の問題でございますが、この比田勝の中央橋の老朽化によりまして、橋梁整備やさらに国道から橋を渡ってからの市道の拡幅要望っていうものが上がっていますので、安全性、利便性を図る必要から、その整備の必要性については十分に認識をしているところでございます。

しかしながら橋梁整備の実施については、架設する2級河川比田勝川が県の管理河川でございますが、県の河川課との協議、さらに国道382号と隣接するために、県の道路課との交差点協議が必要となってきます。そのため県との橋梁整備協議を先行して進めるため、平成25年度に測量及び概略設計、さらに地質調査を実施して、河川計画、橋梁断面を検討し、現在県の河川課及び道路課との協議を進めているところでございます。この橋梁は昭和47年度に災害関連工事で架設されましたが、その後河川法の基準も厳しい方向で改定されてきているため、県との協議において、その条件を解決するためには大変非常に困難な状況であります。今後、橋梁協議の解決をもって道路改良を含めた整備計画を作成し、計画的な整備を推進していきたいというふうには思っております。

認定こども園建設に伴う建設機械及び建設資材の比田勝中央橋通行及び搬入については、設計段階で鋼材による補強を検討をしています。大型車両については、補強を施行してから通行するとともに建設現場の車両出入り口には交通整理員を配置して、歩行者や通行車両の安全に配慮した計画をしておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

次に、園舎建設にあたっての現在の幼稚園そして保育所との協議についてお答えさせていただきます。

本市で初めての公立での認定こども園でございますので、福祉部、こども未来課、上対馬振興部、北部建設事務所、教育委員会総務課、比田勝幼稚園の教諭、比田勝保育所の保育士、泉保育所の保育士、設計コンサルタントによって、専門部会を設置し、勤務する職員の意向が十分に反映される施設とするための協議を3回ほど行っております。

3点目の認定こども園開設後の現在の施設の跡利用についてのお話ございました。比田勝幼稚園につきましては借地でございますが、閉園で用途を廃止するときは、更地にして返すという契約内容でございますので、園舎の解体事業につきましては、振興計画に掲げているところでございます。

また、比田勝保育所、これも借地でありまして、その契約内容は契約解除の際、甲の施設した物件を撤去し、これを現状に回復するや否やは甲乙協議の上、処置するものとなっております。

市としましては、建物の老朽化が著しいことから、比田勝幼稚園と同様解体し、原状回復という方向で考えておりますが、今後契約の相手方である比田勝地区と協議を行いたいと思います。

なお、泉保育所については市有地でございます。公有地でございます。今後、地区の意見を伺いながら施設の利活用についての協議を行いたいと考えております。

次に、御質問の2点目の島おこし協働隊のお話がありました。この事業についての今までの経過というものを、御質問がございましたので答えさせていただきます。

平成23年度第1期生として5名の採用を行い、平成25年度5名が任期を終えられ、うち4名が島内に新たな組織、一般社団法人であったりNPO法人などを立ち上げ、引き続き島に残って地域づくりに貢献していただいているところでございます。

平成25年度には、第2期隊員として3名の採用を行い、任期は27年度までとなっております。26年度には、第3期隊員として3名の採用を行い、任期は平成28年度までとなっております。26年度現在6名の島おこし協働隊員に活動いただいているところでございます。現在、協働隊に活動いただいている事業としましては、6つの事業がございまして、生物多様性保全事業、有害鳥獣ビジネスコーディネーター事業、民間伝承保全事業、島の食材プロフェッショナル事業、島の森林再生チャレンジャー事業、島のタウンマネージャー事業でございます。

今後の事業展開でございますが、今申し上げました事業以外にも27年度、5名の新規隊員の募集を行うこととしており、12月1日から募集を開始しているところでございます。新規募集の5名、これは各部局及び関係団体からの強い要望と提案により、協働隊員の配置が望まれたものであり、域学連携教育コーディネーター、つしまミュージアム・プロモーター、対馬農協・島のもん魅力発信デザイナー、島の循環型農法推進プランナー、島の水産加工マネージャーと銘打って募集を行うものであります。

また、本年12月3日、総務省からこの制度の推進要綱の一部改正について通知がっております。その要綱では協力隊員の起業に要する経費について、起こすほうの起業でございますが、協力隊の最終年次または任期終了後翌年に起業するもの、1人当たり100万円を上限に特交措置を講じることができるように改正をされております。

このことにより、島おこし協働隊の定住に向けた起業支援を行うことで、さらに定住人口の拡大を図ることができるものと思います。市としましては、今回の要綱の一部改正を受け、協働隊の定住支援策、起業策の拡充を図り、地域づくりを担う人材の確保を行ってまいりたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

次に、市道佐保田線についてでございます。

この路線につきましては、総延長9キロ、未改良区間の車道幅員4メートルから5メートルの道路でございます。議員御指摘のとおり、確かに急カーブが多く幅員が狭い箇所においては、車両の通行に支障があり、早急な整備が必要な路線であることは認識をしております。

現在、本市の道路改良事業は、補助事業8路線、起債事業3路線の計11路線の改良事業を行

っております。市といたしましても、未整備区間の早期着工の必要性は十分認識しているところでございますが、そのためには継続事業の早期完成を図らなければなりません。しかしながら、ここ数年補助事業の採択率が要望額に対し40%前後を推移しております。このことから、関係機関へ予算確保に向け、積極的に働きかけを行っているところでございます。

本路線の今後の整備計画でございますけれども、田～小綱間については、平成10年度に着手し、平成23年度までに改良延長を2,120メートルのうち1,660メートルは完成済みでございます。未改良区間につきましては、県営田川河川改修工事との関係があり、平成24年度から休止している状況でございます。豊玉町管内における改良事業の新規路線として、議員御指摘の当該工区と仁位貝鮎線の仁位～嵯峨間を計画しているところでございますが、当該工区の佐保～小綱間につきましては、沿線集落に人家が密集しており、県道拡幅となれば、立ち退き等住民の協力が不可欠となりますので、集落を回避した別ルートを検討なども必要なのかなというふうにも思います。これらの問題に理解が得られれば、この2路線については現在整備中の路線完了後の最重要路線として考えております。

しかし、近年の予算確保状況等を考えますと、同時期に2路線の新規採択については、大変厳しい状況に陥っているというのが現状でございます。現時点では、仁位貝鮎線の仁位～嵯峨間をまずもって先行して着手をしたいというふうに思っております。

また、25年度から新規路線として、上対馬のほうの堂坂線と南部地区の尾浦浅藻線に着手しておりますこの2路線については、大変大型事業であり集中投資も必要と考えております。したがって、今後の整備計画については、国会議員、九州地方整備局の関係機関へ財源確保に向けた要望活動を積極的に行いながら、本庁関係部局、各振興部及び関係機関と優先順位等について十分検討してまいりたいと思っております。

次に、4点目の交通安全協会のことについて答弁をさせていただきます。

南北交通安全協会の合併につきましては、昨年8月28日に対馬北地区交通安全協会より運営補助金の増額陳情の際に、役員さん方と私、それと総務部長との協議の中で、事務局長さんから合併の方向性についてお話が出てきたと記憶をしております。

協議では、事務局長さんのほうから陳情の経緯が説明されました。合併については、平成21年度に南地区との統合を進めるために、特例的に市の補助金を増額していただいたが合併には至らなかったため、これまで南北それぞれで運営を行ってきた。しかし近年の会員数の大幅な減少により、協会運営が困難になっており、仮にこのまま会員減少が続けば運営費が不足して、対馬北部の交通安全対策が立ち行かなくなるため、運営補助金を増額してほしいとのお話でした。

市といたしましては、平成21年度に1度、合併協議を行ったことを踏まえ、組織の再編成、スリム化を図るため、再度、南地区協会との合併協議の場を設けてはいかかと提案をし、市

としましても協議の場の設定、日程調整について積極的に関与していくことといたしました。

こちらの市の提案を受け、北地区協会の役員の皆様から平成26年度を期限とし、南地区協会との合併に向けた協議を進めたいとの御意見をいただいたところです。その後合併協議の準備のため、平成25年9月から両地区の事務局長さんを市役所に来ていただいて、合併準備協議により両協会役員による合併検討委員会の開催準備を行いました。

昨年12月4日には、北地区協会により南地区協会会長宛てに公文書により合併推進の協力要請が行われ、本年4月28日に第1回の検討委員会が開催をされました。現在も合併に向け、両事務局長による調整が行われてきたところですが、12月に入って両協会で役員会が開催され、協会運営の方向性変換による合併見直しの御意見も出てきていると聞いております。

北地区交通安全協会では3日に役員会が開催され、県の交通安全協会との協議を踏まえ、合併を断念し会員数確保に努めつつ人件費等の経費を節減し、今後も単独での運営を行っていくとの意向を聞いたところです。なおこの意向は12月に予定されております合併検討委員会で提案され、合併についての結論が出される予定であるとも報告を受けておるところであります。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 4点ありますので、なかなか進まないんですが、1項目ずつちょっとまとめてみたいと思います。

先ほど市長が答弁をされましたように、国道からこども園まで中央橋、これは工事が始まるわけですからとてもじゃないが間に合わないわけで、補強するということであります。

それと地区、地域住民の方には御迷惑にならないように交通誘導員をおいて、工事にかかるということですから、まあまあそれはそのようでもいいかなというふうに思いますが、今後やっぱりさらなる園が開園した後は、道路をつくっていただいて、子供たちをスムーズに園まで運べる道路として、また駐車場も含めた道路整備を根本的に考えていただきたいというふうに思います。

それから2点目の園建設にあたり県との協議ということについてということで答弁がありました。3回ほど園に足を運んで協議を重ねたということですが、保護者向けあるいは園の先生向け、地域向けの委員会が何回となくなされておりますが、協議会がなされておりますが、私も4回目の協議会に参加をさせていただきました。このとき18名ぐらいの先生方、保護者、PTAの役員さん等々が集まられていろんな意見が活発に出されたところなんですが、1番気になるのが、そのときに来ておられました先生のほうから、園のほうに足を運んでいろいろな子供たちはここでこの場所はこちらだから新しいときにはこうしてくださいよと言いたかったけど、それがなかったということで、ここに私は質問をしたわけですが、やはり終わったことを言っても始まりませんが、そういうことで先生方あるいは市民、行政も一緒になって考えていくのが本当の

ベターじゃないかなというふうに思いますので、大きな建設、先ほど市長が答弁なされましたように初めての試みの園ですから、ここら辺をきちんとしてもらいたかったなというふうには思っております。

それと、この園が開園した後の跡利用ということで3園ありますが、跡利用ということで、市長の答弁のとおりだろうというふうに思います。それが、妥当だろうというふうに思います。

あとは泉保育所については、先ほど言われた公の場所であるので、またまた後でというような考え方であろうというふうに思います。それはそれで地域の意見を聞きながら地域が利用できる施設ということであれば、地域のほうに戻していただきたい。戻していただきたいじゃなくて、地域で使っていただきたいというのが、そうですね、市長、そこら辺をちょっと1回。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほどの答弁の趣旨は、今おっしゃられましたような趣旨で答弁させていただきます。

○議長（堀江 政武君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） そういうことで開園後には、その辺もきちんとしたものをつくり上げて、跡利用がスムーズに行く方向でやっていかなければという、我々も市民の1人として協力をしなければというふうに思っております。

2項目めの、島おこし協働隊でございますが、ほんとにすばらしいこの事業が組み立てられてやられました。ほとんど島民の皆様も島おこし協働隊という名前を聞いてだけでぴんと若者が浮かんでくるような、この事業じゃなかったらどうかというふうに思っております。

また、これからも続けていくということでありますので、私もこれは大賛成でございます。またきょうの最後の質問で同僚議員が質問いたしますので、あまりかかわりたく、あまり深くは入りたくないんですが、この島おこし協働隊でこの対馬の82キロの長い距離の中で1カ所だけじやなくして、2カ所、3カ所、中部、北部、南部というような形に分けて、振り分けての島おこし協働隊というのも私は試みていかなければいけないんじゃないか。

それとまた、基盤のある農業だけでなく、漁業関係にも少し島おこし協働隊を入れて勉強を深め、漁業青年者とのやはり勉強を一体となってやっていくのが本当じゃないかな、それで本当の予算が分配をされるんじゃないかなというふうにも思いますので、そこら辺も行政側は視野に入れられて、今後検討をしてもらいたいというふうに思います。

それと、この協働隊、空き家が非常に多くあります。その空き家を利用して、協働隊で空き家を埋めてもらって、そこで限界集落との縦横のつながりというものをもう1回復帰させてもらいたいというのが私の願いでございます。

あと25年度ですか、域学連携ということで、この島おこし協働隊と一緒にやった域学連携事

業が行われております。これもほんとにすばらしい事業だなというふうには思っておりますが、なかなか学生でありながら道路の交通便が悪いということで、学生ですから車が乗れないという面もありまして、ここもやはり便を要するためには場所をいろいろと選定をしていただいて、大学生が勉強されて、この島が全国的にアピールできるようにする方法も考えなければいけない、これは反省のほうに載っかりますので、第1次産業を後継する人がいない、これに対しては島内で第1次産業を学べる仕組みがあったほうがよい。子供たちは学校教育が忙しく、家業の手伝いができないので学校教育の中にも取り組んでもらいたいというのが大学生の意見でございます。

それと地域再生・離島の生き残り戦略としての域学連携において、経済を支える自給自足が大切、現場にあるものを生かす、実践が大事ということで活性化の源をはっきりさせて、この事業に取り組めばというふうにも載っております。

参加者の意見であります。参加者にとって対馬という地域への愛着というよりも地域住民や対馬に活躍するとんちゃん部隊、あるいは漁業壮青年部、島おこし協働隊、Iターン者などの交流によって生まれた人的なつながり、これは縦横のつながりですね、人的なつながりが対馬ファンを誕生させる印象であったというふうな反省もあっております。そこら辺からこの辺をやっぱりきちんとしたものを基盤を固めて、それからさらなる事業に展開をしていただきたいというふうに思います。

3点目の市道佐保田線の道路改良であります。先ほど市長が申されましたように、私もここ議員になる前に何か月も工事を通っておりました。この道路は危ないところだなというふうには思っております。中部クリーンセンターがそこに建設をされた。これはその中部クリーンセンターまで運ぶこの運搬車の運転士さんたちの大変だなということで、改良の質問をしたわけですが、集落の中がほんとにこう入り乱れておって、交渉が難しいだろうなというふうには思います。

新しい路線が考えられるならば、新しい路線のほうで考えていただいて、早急に着手ができる計画を立てていただきたいというふうに思います。

4点目の交通安全協会についてであります。市長が申されましたように、ほんとに厳しい財政の中で補助金を使つての交通安全協会。私はこの税金の補助金の使い道というのも補助団体が多数あるわけですが、やはり市民の安心・安全を守るためのこの交通安全協会ではないかなと、いう点ではこの交通安全協会、南と北にあります。これでいいのかなという気もいたしております。

その中で、地域の中ではこの支部の皆さん方、大変啓蒙活動あるいは街頭キャンペーン、運転者講習会等とのいろんな活動されてる中で、特に北の場合には、支部には1円の活動費も払っていない状態です。そうすることで、我々の北では横縦のつながりというものが見えてくるわけですが、やはり私たちはボランティアでいいですよ、市の金まで使つてのぼりを立てることも

ないですよということで、そういうような意見を聞いて、今取り組んでおられるという状況でございます。

それとまた北につきましては、賛助金をいただいております。各家庭300円、一口300円の賛助金をいただいております。これも運営がままならないから始めたわけでありましょうけど、なかなか集落によって私は車の免許を持ってない、私のとこは何世帯しか車に乗る人がいないという集落の中でいろんな意見が飛び交う中で、やはり我々としては運転者だけのための交通安全協会じゃありませんよと、横断歩道を渡る人、またはその子供たちの交通指導員そういうのも一緒になって活動してますので、そこら辺は御理解いただいて賛助金をいただきたいということでやっておりますが、なかなか難しいところが出てきたわけで、これも何とかしなければということではありますが、それにはどうしても補助金が絡んでくるわけで、そこら辺を今から精査しながら今後の交通安全協会の支障を来さないようにやっていくつもりでありましょうけど、なかなか難しいところありますので、またまた折には陳情に伺わせていただくというような話も聞いております。そういうことも含められて、今後検討を担当部署と検討しながら、市民の安心・安全、地域の安全を守るためにやっていきたいというふうな意見でございます。

そういうことで、南地区の免許所有者が現在1万3,897名ということで、会員数が9,730名、北地区が5,599名、会員数が3,415名というふうになっておりまして、心ある人たちがこうして会員になってくれてあるわけですが、まだまだこの完全に会員に100%の会員には至ってない。先ほど市長の答弁にありましたように、協会としても努力をしてこの会員をふやさなければいけないということも、両協会の役員さんも話されておりますので、そこら辺も今からいろいろな形で取り組みをする中で行政側からも知恵を借りたい。お互いに切磋琢磨しながらこの交通安全協会を2つ残していきたいというふうな考えでございますので、そこら辺も考慮していただいて、さらなる御厚誼に力を貸してほしいということです。

また県のほうの話がありました、県の交通安全協会としての基本方針というのがあります。警察署単位で設置されている各地区交通安全協会が1カ所になるというのは、地域における交通安全活動の基盤が弱まり、将来に禍根を残すことになる。また長崎においては、今後3年間で交通安全指導員4名の人員削減計画も浮上している状況であると。地域の交通安全の自主的な活動母体である地区交通安全協会の存続が、交通安全指導員設置の条件でもあると課するときに、対馬北交通安全協会の存続は極めて重要であるということが、県の協会の回答であります。

そういうことで、この交通指導員については県と市が両方負担をしてあるわけですが、交通指導員は皆さん方御存じのように、幼稚園、小学校あるいは歩行者等の講習等々に学校に出向いてやってるわけです。南に2人、北に2人、今のところ4名でございます。こういうのも失くしていいのかあってどうなんだろう。私はこれは、ほんとにあるべきじゃなかろうか、これがあつ

て今までの地域の安心・安全、地域の交通安全が守られてきたんじゃないかなというふうに思います。

今北地区では、死亡事故ゼロ看板が1,000日に達成しようとしております。この1,000日を目指して支部の皆さんで北部の全体で死亡事故1,000日を目指そうということで一生懸命取り組んでおるところであると聞いております。そういうことも鑑みながら、どうしても残していかなければいけないということで市長の心のうち、市長の考え方をこの交通安全協会について。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この南北の交通安全協会の問題につきましては、協会役員さん方もこの問題で、ずっと何年にもわたっていろいろお悩みになってる問題だというふうに思っております。私どものほうもこの問題について大変悩ましい問題だなというふうに思っています。

この問題が起こってから、私の個人、個人といいますか私の胸のうちを教えてくださいということでしたから、ほんとで交通安全行政っていうのは、どうするのが最もいい形なんだろうかということもずっと思うわけです。私どもがある意味交通安全協会のほうに専らお願いをする形で、今ずっと先ほどおっしゃられたように57年とか40何年とか、それぞれが運営をしてくださった。この形がベターなベストなのかというふうなことも1人考えておるところです。

最終的に12月中にそれぞれの合併協議の結論というのが出されるというふうに聞いております。先ほど申しましたように、交通安全行政というのがどうあったが1番いいのかということをお願いしながら、最終的に皆さんと結論を聞いて、また話し合いをさせていただいて、落ちつくところに落ちつかせていきたいというふうに思っております。申しわけございません。

○議長（堀江 政武君） 1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） そういうふうになるだろうというふうに思いますが、今市長が答弁されました交通安全行政についてということですが、この安全協会がなくなれば、もちろん職員がかかわっていかねばいけないことが出てくると思うんです。そういうところと、あとは事務の問題と講習会の違反講習とか、その講習の問題が出てくるんです。そこら辺が職員でできるのかということも鑑みられるわけですが、やはり私はこの歴史ある交通安全協会が今北と南を事故から守ってきたんじゃないかなろうかという観点からは、まだまだもっともっと議論を深めて、よりよい方向に持っていかなければいけないというふうに思います。

南と北の考え方というのが違うのは当然だろうというふうに思うんですが、人口の差がありますから全然違うわけですが、南の交通安全協会に行けば運転免許証は1日で切りかえができる。それだけ何千万の機械を据えていますから、県のほうから県警のほうからその機械を据えてやっておりますから1日でできます。北のほうにはそれがありません。2週間かかります。そういうような状況から考えて、南まで行ける若い者はいいでしょうけど、高齢者になりますと、2時間か

けて免許の更新に行かなければいけない。

そういう利便性というのも考えて、人口減ですから少しは収縮もしなければいけないと思いますが、なくすのがどうかという、2つを1つにしてどうなのかというような危機感も出てくるので、もう少しこのことについてはいろいろ煮詰めて、いろいろ考えをまとめてやっていかなければならないというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いをします。私の質問を終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は2時からとします。

午後1時47分休憩

午後1時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 通告に従いまして、市政一般について質問を行います。

私は、9月定例会の折、林業の振興と林道網の整備という題で時間不足のため今回再質問をさせていただきます。

本年7月31日開催された、地域材供給者倍増協議会が対馬部会を設立するとの中で、現在3万80立米から9万500立米の約2.3倍の材積を見込む計画を樹立しております。これを約10年間でこれをこなすというふうな方向を資料に打ち出しております。しかしこの材積を搬出する林道の整備がまず不可欠であります。対馬の場合、長崎県と対馬市にその対応が求められることが予測されます。

しかし、この双方の市と県の役割分担と、そして市の財政対応の見通しについて非常に私は懸念するところがございます。このことについて市長の考え方をお尋ねしたいと存じます。

次にいづらはら病院跡利用についてお尋ねします。

9月定例会の折、具体的な計画について説明を受けたところではありますが、開院を予定する構想はいつ頃になるのか、現段階の考えで結構ですので御答弁をお願いします。

途中の課程についたり、内容については、今まで3人の方がこの問題を質問をしておられます関連で、省略しても結構でございます。重複するところは。

最後にツマアカスズメバチの被害と駆除対応についてお尋ねします。

日本ミツバチへの被害の実態の把握、状況、今後の対策についてお尋ねします。これもまた市長の行政報告の中で環境省の実施対応等も報告っております。ダブるところについては省略しても結構ですが、主なところだけでもお願いをいたします。

以上、この3点について市長の答弁をよろしくお願いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大浦議員の質問に答えさせていただきたいと思います。

9月定例会の折、バイオマス発電に絡む計画というものが協議会において話を進めるが、それについてどのように材を供給する体制を整えるのかというふうな御質問が9月議会にありました。その際に申し上げたのと同じようになりますが、林道を早急につくり出すということが大変不可能なことはそれに見合うだけをつくり出すというのは、すぐには不可能だというふうに、現実問題の話でございます。

そういう中、高性能機械とかそういうものもやりながら、導入しながらそれには対応をしていかねばならないのではないのでしょうかというふうな旨の答弁をさせていただいたというふうに記憶しております。

林道事業という今後の採択の状況とかいうもの、そして森林所有者と林道が一体であれば、物事の進捗は早いんですが、その森林所有者の方と仮に幹線である道路とか県道とか市道とかいろんな運び出せる道路っていいですか、現在の、そこのつなぎ込みの部分において、全く森林所有者がそこに関係する森林所有者がいらっしゃらない、全く別の方だとか、不在地主であるとか、いろんな問題がそこにあると、林道事業というのが右から左にどんどん進んでいく状況にないという意味において、9月議会においてそのような以上のような答弁をさせていただいたところでございます。

次に、2点目のいづはら病院の跡利用施設の問題で、開院予定はいつごろになるのかと現段階での考え方というのをお示ししてはどうかというお話でございます。

この跡利用の施設につきましては、皆様方とある意味心は一緒なんですけど、介護施設を含めた病院というものを、一体的な整備を私どもは強く求めているということでございます。そうなりますと、介護施設の関係等々考えますと、5月17日の統合病院への転院っていいですか、転院後即にできるという話は今でもしておりませんけれども、一定期間の空白期間は生じてますというふうに今までも説明をさせていただきました。

介護施設の問題というのが、新たな病院の開院との兼ね合いが一緒になって来るだろうと思っております。そういう意味において、私としましては、できるだけ早く事業がっていいですか、開院ができるように方策を講じてまいりたいと思っておりますが、今この時点において、いついつから開院をするという方向でということをお伝えできないと、現時点においては、というのが現実的な話でございます。

次に、ツマアカスズメバチのお話がありました。この対処の状況につきましては行政報告でお話をさせていただいておりますが、本市では10月までに89カ所のツマアカスズメバチの巣を確認し、59カ所の除去を行っております。

また、ことしの10月から環境省の直轄事業により、ツマアカスズメバチの防除及び営巣箇所
の探索が行われており、環境省からの報告はまだあっておりませんが、相当数の巣の除去が
環境省事業により行われております。

なお、このツマアカスズメバチを特定外来生物に指定するための手続も、環境省により進めら
れており、本年度中に指定となる見込みと聞いております。この指定によりまして、ツマアカス
ズメバチを生きたまま移動をさせたり、飼育して野外に放つなど故意による悪質な行為が規制さ
れるとともに、場合によっては処罰のこれは対象となります。

また、日本ミツバチへの被害実態の把握につきましては、現在のところ直接的にツマアカスズ
メバチが与える影響について検証がされておられませんので、被害実態としての把握はできており
ませんが、市としましては今後ツマアカスズメバチが生態系全体に与える影響や更なる拡散を抑
えるために、営巣情報の収集や初期段階での営巣除去への対応など、引き続き国や県と連携を図
りながら対処してまいりますとともに、27年度につきましてもさらに環境省へ要望や提案を行
い、この外来種でありますツマアカスズメバチ対策を強力に推し進めていただくようお願いをし
てまいりますので、御理解と御協力をお願いを申し上げます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 順番は異なりますが、病院問題について先に触れてみたいと思
います。

今回の議会で、5名の方がいづはら病院についてのいろいろな質問がっております。これは、
来年5月の15日に統合病院へ全ての入院患者も移転し、そういうふうな中での時間的な緊迫が
っております。その中で、今後どうなるであろうかと。きょうも重複しますが、県のほうへの
協議を行い、そして県の医療審議会の審査過程の中で国の審査会そして厚労省への申請、そうな
れば、最終的にうまくいけば認可があり、許可があり、施設の改修等が一部あるか知りませんが、
その辺の中で書類的にまともに行った場合はそういうことになるでしょうが、この開院に予定す
る施設の改修ということは、作業としてございますか。このいづはら病院の施設の改修というこ
とがございますか。それを1つお尋ねします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 施設の改修につきましては、当然ながら、今法人さんが考えてあります
病院の部分につきまして、それから介護施設等の方向性と、まだ最終的な最終形まではいってお
りませんが、その部分は、病院等の60床の問題につきましても、1階部分で十分に事足り
るベッド数というふうなお話を聞いております。そういう中、改修ということは当然出てくるお
話でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 今から話すことは市長として私は、何を根拠に発言するかというふうなお話をするようになるんですが、しばらく聞かれました、想定する中で回答をいただきたい。そうではないということであればそれでも結構ですが、実は私この最近ですが、医療機関のある方とお話を、要件ございましたので、話をする中で、今後のいつはら病院の跡利用が、もし今年度の中で、うまく協議もしくは審議会をパスしなかった場合、どのようになるのかという話がありました。

その中で、将来的には今の方向で結構なんですけど、やろうとすることは、もし今年度に間に合わなかった場合のことを私は申し上げるわけです。全部ゼロということじゃなくて、今年度に間に合わなかった場合の市の対応、ここらについて恐らく市長は心づもりはなかったからそういう答弁は簡単にはできんでしょうけど、もし想定した中でどのようなことが考えられるか、これを酷とは思いますが、発言ができれば私は聞きたいと思うんですが、非常に難しいことですが、そういう発言がある方からございました。そのことにつきまして、できれば答弁をお願いしたいと思います。今年度間に合わなかった場合、いわゆる平成26年度の審議会に通らずに、不十分ということで次に回された場合のその間の措置をどうするかということをお聞きしたいと思いません。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） たらればの話でございますが、そういう場合であった場合ですね。

○議員（15番 大浦 孝司君） はい、そうです。

○市長（財部 能成君） あった場合は、私は市民の思いというのをかなえるために、年2回ですか医療審議会は開かれてると思います。それらに当然上げていくのが向こうの考え方、そして私どもの考え方、市民が考えてることをぶつけていくのが私の務めだと思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） その審議会、年2回というふうなことでですけども、私も1回かなと思ってたんですが、ただ当分の間その開院ができなかった場合の措置はどう思いますかというふうなことに限定して答弁を求めたいと思います。最終的に開院が1年ずれた場合に、その間をどういつはら病院跡を利用していくかというふうな緊急の策は、市長はそういうになった場合、いかに思いますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この跡利用の方向性について、この2年ですか3年ですか、ここで答弁をさせていただいておりますが、5月17日に統合病院が開院することは最近決まったわけですけども、以前から言っているのは、新たな病院が移ったとしても、改修とかいろんなことで時間を要するでしょうから、そこについてはある意味空白期間といいますか、というのは余儀なくさ

れますというふうな話はずっと言い続けてきてたと思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 確かに短期であれば私もそんなに問題なからうと思いますし、当然だと思います。ただ、1年とか2年とかいうふうなことになった場合に、やはり外来という行為は付近の住民の思いから、これだけはさせてもらいたいと、やらしていただきたいというふうな思いがあると思いますが、その辺で新規に医療機関が入ることは、不可能ではございますから、現長崎県病院企業団の話し合いがもしものときに、もしもだめになった場合に、市長、話し合いをするというふうなことが私は出てこうと思うんですが、そういう腹積もりはございますか。要は開院を新規にできない中で、継続して外来業務を存続するというふうなことを話し合うこと、こういうふうな問題は出てくると思うんですが、それを市長はどう捉えますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まず外来の話で今されましたが、このお話が出てから、それから統合病院の話でずっときたわけです。私どもは63床の足りなくなる、入院の患者はほとんどでどうなるんだという話をずっと言ってきました。ここ最近、病院の方は入院患者の調整をされてるように決算書を見れば感じますが、そういう中で入院患者を若干抑えてる部分があるんだろうな、それは新しい病院に移り込んでいく際の措置としては、いたしかたない部分もあるんだろうと思います。1つ私この問題で欠落してるのが、今大浦議員がおっしゃられた外来機能とかいうことほとんどでどうするのっていうふうには私どもも思って、皆様と同じように、市民の人たちも同じように、これを病院企業団はそこで物事をしない、介護施設だけでいいんだというふうな方向性を出されて物事は始まったわけです。

しかしそれではいかんではないかということが、このいつはら病院跡利用の話に当然なってきたわけでございますし、外来だけでも今の病院企業団のほうで当分の間やれないのかというお話だというふうに僕は解釈しました。ですね。ただしどっかの時点で改修ということをしなくてはいけないことは出てきます。入院、回復期のベッドを用意をしなくてはいけない。そして介護施設等をそこに入れ込まなくてはいけない。改修をしなくてはいけない。そういう時期っていうのは、どうしても空白期が出てくるんじゃないかというふうに思ってます。

その問題についても、ある意味医師会の皆様方との当然協力でやっていかななくてははいけません。ただし医師会の先生方とも話す機会はたびたびありますが、やはり御高齢になってきてあるということで、なかなかつらいよという話は率直な意見が出ます。

空白期は、どうしても出てくるというふうに思ってます。その施設を利用する限りにおいては、工事をやらざるを得ない、やはり相当の騒音も出ます。そういうのが、そういう機能の中でうまくやっていけるのかどうかというところでの疑問は今あります。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 今回の件最後にしますが、準備期間の病院を休むということなら私もこの問題あえて出す気なかったんですが、場合によっては少し長期的にそのことが伸びるようなこと、わざわざ今の段階で3月じゃ遅い、12月の段階で、それをやはり意識しながら話し合いをするべきであろうというふうなことを進言があったものですから、あえてこの場で申し上げました。

これ、ある程度責任持ったお方の名前出せませんが、言葉でございますから、要は厳原地区のことを考えれば、外来対応はぜひやらないかんというふうなことで、そういうふうな十分心意気は持っておられました。

ですから、今市長が進めることを何も100%通せんぼするんじゃないで、なかなか物事が進まんやっただ場合の対応を考えとかないかんぞというふうなことでございますので、その分は理解してください。話の用意はお互いにしないかんというふうなことをお聞きしまして、きょうの場で発言せないかんということになりました。今の件は私は済めます。

それと先ほど市長の答弁で林業の振興と造林にかかる材の搬出が迫っております。それにかかる林道整備に多大の費用がかかるということで、なかなかことが進まない。しかし、伐期にきておる山々が待っております。それで、今対馬市が事業主体でこの林道をつくった場合の負担、国の50に対して県の10%、対馬市が39.1%ですか比率が。市長少しこの辺を検討していただけませんか。以前までは基金というふうな名称のもとに、残りの負担を100%基金で対応したのが、平成26年までその制度があったわけです。だから対馬林業公社もその制度を活用して林道も整備したわけですが、27年度からそれを打ち切りというふうなことになつとるそうです。ですから、非常にピンチに立っておるのがこの林道網の整備だというふうに私は聞いておりますが、来年から地方創生に対する予算も対応もやるというような方針も聞いております。ですから基金事業の復活、これを林業振興の中で再度唱え直して、地方自治体の負担がなくなるような動きを市長、先頭に立ってやってください。先ほどの答弁じゃ造林を今から活用しようとする大勢の皆様が失望しますよ。いかがでしょうか、私はそれに今から新しい運動と思うように出してほしいと思いますが、市長どうでしょう、私そういう今の答弁やったらがっかりしますよ、皆さんが。それは厳しい言葉かもしれませんがそう思います。いかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 逆に林業公社の方々に、私ども相当の貸付金もあるわけですよ。林業ってというのが島にとって重要だということがわかった上で、今まで各旧町単位でも対馬市になっても貸付金を相当の金額をしてきております。これらを焦げつかさせようとかいう思いは当然ありませんけども、しかし公社自身も私どもだけに頼るのではなくて、公社自身も動き出しをす

る必要があるのではないかというふうに思います。

私も基金事業がなくなるっていう27年度から基金事業が使えないっていう話は聞いてはおります。しかし私どもだけにおんぶにだっこじゃいかんのじゃないか、全部頼り切るのではなくて、やはり公社も自分たちでやっていかななくてはいけないというところも見せていただかないといかんのではないかというのが、私の率直な感想です。私自身、一緒に動きましょうて言われりや幾らでも動きます。全て市がそれをやってくださいよ、全てお膳立てしてくださいよっていう話の状況では、公社も財務状況はそれではないと思うんです。一緒に動き出しながら、この問題についての解決を図るべきだというふうに私は思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そのとおりだと私も思っております。林業公社は26年度5年度までですか、独自に林業専用道の造成工事はやっておるとやってきたというふうに報告は受けております。その財源が断たれた中で、県と市に方向を投げておるわけですが、今おっしゃりますように、ワンフロア化したわけですから、長崎県林業、昔、部と言ってましたけども、その皆さんと対馬市と林業公社、森林組合、4者です、どうするかという話し合いをしょっちゅうしまして、その財源問題が方向づけがない限り私は無理と思っております。39%というのは、それは県費の1割は大きいわけですから、これをどうするか、どういう方向に持って行くかということは、4者は常に協議しないかんし、しかしこれは政治を動かさないかん問題であります。はっきり言いまして、この財源を国の政策を動かすということになります、今おっしゃるようなことをまとめるような方向でいきましょうや、全くそのとおりですよ。

しかし、技術的に資金的に対応するのは長崎県と対馬市が確かに先頭に立つことは事実です。その中で皆さんの工面をあるいは努力をひとつまとめようというようなことで取り組んでください。今のお話で結構です。そういうことをしてほしいということで今の件は終わりますよ、はい。

それから市長、もう1つあるんですが、人工林の総面積が1万9,690ヘクタール1万9,000です、これは山林の31%を占めとるそうでございます。そして今からそれを切ろうとする段階に入っております。そして下島のほうがこの面積がやや多ゆうございます。上のほうは6、4の4までいかんが4.5と5.5ぐらいですか、そういうふうな面積と思います。

それで、この材の積み出しは基本的には九州本土に行けば厳原港もしくは峰港湾、ここを使っで行っておりますが、最近に韓国への輸出があっております。行政報告の中で、韓国にその市場の調査、林産の価格の動向を材の動向を市のほうで調査するという報告で、私はこれは今からちようどそういう時代にかかるなど思っておりますし、ここでひとつ私の提案がございまして、峰港湾の状況というのは南東の風、北東の風、真東の風含みまして、非常に積み出しが海が荒れて困難ということは税関の方も言っていましたよ。

ここをひとつ考え変えまして、静かな場所で積み込むという積み出しをするということを、私は比田勝港の国内ターミナルの背後地を利用した木材をあそこに一部そういうしけの場合に対応するという意味で、比田勝港で木材の輸出の実績をたくさんつくる、最終的にはあそこで比田勝港が貿易港としての将来、認定、申請する大きな材として活用するという方針を私は立てるべきだと思うんです。対馬から韓国に持っていく品というのは、今から魚ではありません。木材です。県から資料をもらいました。韓国の市場のヒノキというのはぐんぐん上がっております。行政報告のとおり、将来伸びるような方向に私はなると思います。ひとつその中で、輸出産品として北の玄関口が将来貿易港になる素材としての扱いを峰港湾もいいですが、東の風をかわす場合に比田勝港で積み込む。そういうカウントをするような仕組みを今のうちに心がけていいんじゃないでしょうか。それを私は特に地元とそれから行政一体に考えてほしいと思います。いかがですか、市長の思いを。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 峰港湾の積み出しが難しいと大変北からの波が入り込んで、船も寄せづらいうふうなことは以前から聞いておりました。中村知事が島内を視察される際も、その場所は視察先に入ってなかったんですけども、私同乗してたもんですから、ある意味強引に東海岸で峰港湾のほうに曲がっていただいて、そこで説明をさせていただきました。

あの北側の防波堤をつくるとなると、結構な深さがあるもんですから事業費が相当かかるぞこれはというふうな説明がありました。その後国交省の港湾局上がりの審議官の方にお会いしまして、この話をさせていただきました。その方が実は港湾局のときにこの峰港湾の予算を配分をされた方だったもんですから、十分にその状況というのはわかってありました。その方にあなたが予算配分してくれた分がまともに使えませんか、冬場になると。どうかしてくださいというふうな話もさせていただきましたけども、難しいような、港湾の港湾局の予算自体がとてつもなく少なくなっている、今状況です。長崎対馬管内においては、たしか20パー割り込んだんじゃないかと思います。そういうふうな要望額に対して、状況です。大変困難だなという話がありました。

今大浦議員がおっしゃられるように、韓国に向けての輸出ということになると、やはり輸送コスト、距離、時間考えますと当然比田勝港というのが最もベストな輸出港だろうというふうに私も思います。

C I Qの問題、これが常につきまとうわけですが、先だって九州地方整備局の港湾担当の副局長さん、そしてまた後日局長さんとも長い時間話をさせていただく機会いただきましたけども、ビジットジャパンと港湾の予算とがリンクしていくような予算のあり方というのをお願いしたいと、そうじゃないと輸出もされないじゃないかというふうに、この機会を港湾局も逃したらいか

んのじゃないですかという話もさせていただきました。

その地方整備局長さんも来月の末に対馬に初めて地方整備局長が2日間入り込んで、現地を見ましよう、まさに皆様方が推し進めていただいております国境離道ということの現状を、どうハードをつくり込む、九州地方整備局は、お手伝いできるのかとかいう視点で自分も入り込みますということで、今日程調整をしてるところです。いろんな形で今おっしゃられた問題等々についてきちんと2日間にわたってお伝えをしながら、全てそこで解決するという問題ではありませんけれども、そこが受け持つ分野において、1つずつでも形になっていくようにこちらは努めていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） その件についてはこれで終わります。

それと、最後にツマアカスズメバチ、このことについてある上のお方がてんでそのミツバチの蜂がおらんごとなってしまうた、蜜も取れない格好で、この23年度から被害が出ておるというふうに本人は言っておられました。そして近辺の4地区の仲間の20名足らずの方の実績を私は数字で見ましたが、6割以上を超えた被害です、上のほうは。だから蜂の穴から蜂が逃げたしまった、蜜がたまらないという非常に大きな被害になっております。それで、下のほうがどうかといえば、下はそんなに捕獲調査で実績が少のうございます。ところが下も蜜がたまらん、蜂が逃げたという話を私の町では聞きました。これは、ウィルス性の子出し病という物の言い方されておりましたが、それではなかろうかということで、少々原因が違うようですが、市のほうの農林部のほうは、蜂蜜の年間の採取量といいますか、これは把握されておりますか。何かあれば、もしありますか、ないですか。

多分、半分以上従来より蜜がとれておらないということじゃなかろうかというような話も聞いております。市長、この蜂蜜の将来の商品開発もしくはその位置づけというのは、どのように捉えておりますか、そこらをひとつお話聞かしていただきたいと思うんですが、特産品として将来像は。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 日本ミツバチがこの対馬の自然の中で採取してくる蜜っていうのが、多くの方たちから絶賛をされ、高い価格で取り引きをされております。どうかしてそのあたりの自然が破壊されないように、やはりしていくことによって、蜜自体もふえていく、本来であればふえていくというふうに思っていますし、限られた島の面積でございますので、爆発的にそれがふえるのかどうかというのは私も計算したこともございませんけれども、ほかの外来生物とか、また今おっしゃられたウィルスによるようなことで、この大切な日本ミツバチが減っていくというようなことのないような処置を、私どもは講じていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 最後ですが、環境省が直接平成26年10月から直接予算充当を行い、今後もその対応をやってくということで報告が聞きましたが、担当部署でも結構ですが、その調査チーム、要はどこに巣がありますよ、これ山の中で広大な山の中で探すことに限界がございましょうが、そこらのことと、そして巣を叩き落とすと言いますか、除去することのスキームとかいうか、そこらあたりの構想というのをちょっとあればお聞かせいただけませんか、将来構想。というのが、短期決戦をやはり上のほうやらないと、これをぼつぼつやれば、いつまでたっても20年かかっても困るわけですから、できれば短期決戦型でこれは臨むのが私は兵法といえますか、そういうふうな戦略をつくらないかんと思うんですが、そこらあたりを環境省に要請、要望せんにやいかんじゃないですか、地元として。もしそういうふうな思いがあれば、担当部長でも結構ですがお答えください。なければ結構です。

○議長（堀江 政武君） 総合政策部長、平間壽郎君。

○総合政策部長（平間 壽郎君） 方法といたしまして、議員さん御存じのとおり物理的防除そして科学的防除という2種類の方法があるんですが、今のところ科学的防除のきちんとしたものについての知見っていいですか、確立されたものでございまして、相変わらずやっぱり物理的防除に頼るしかない、それで環境省といたしましては、来年度の平成27年度に向けて概算要求を現在されております。しかしながら、その具体的な組み立てと申しますか、議員さんがおっしゃられた具体的な組み立て内容については、まだ環境省のほうでも検討はされてないということで、環境省に照会したところ、今の時点ではそういうことでありまして、概算要求だけを現在行われてるということでございます。内容については、主にやっぱり物理的防除が中心のものだろうというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 少々遅いような展開が思われます。イノシシもそうですが、もう止まらんしなですもんね、増えていけば、なかなか止め切らん。なかなか難しい広大な山林の中でそれをやっしまえということもまた酷なことで。ただ上のほうが蔓延、下まで余計来とらんような調査報告です。できりゃあこのうちに今の状況を少しでも除去できるような方向で、担当部署と環境省は連携して対処していただきたい、このように思いまして一般質問を私終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は3時からとします。

午後2時44分休憩

午後2時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。通告に従いまして、南部地域の振興策について、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

1点目は、旧豆敷支所跡、これは住民センターを含みますが、南部地域の拠点として活用できないか。

2点目は、乱川上に離合場所の設置はできないか。

3点目は、空き家の活用策について。

4点目は、バス停に待合所の設置はできないかであります。

御承知のように対馬は、南北に82キロ、東西に18キロと日本列島の縮図のような島であります。

現在の島の構図を見てみますと、韓国からの観光客の増加に伴い、まず中心は城下町である厳原を拠点とした首都機能の充実を図っていると思われれます。宗家墓所、金石城跡、清水山城跡と3つに国指定史跡を中心に現在（仮称）観光交流センターの建設が着工し、来年4月にオープン予定であり、また県立資料館の建設の協議が進められており、また厳原市街地の大通りと川端通りを結ぶ横町線の計画、あるいは市街地の国道の改良等も進められております。旧厳原町時代からの懸案事項でありました佐須坂トンネルも平成28年春には開通予定であります。このトンネルの開通により、佐須地区の活性化に大きくつながると思われれます。

また美津島町では、新病院の建設も急ピッチで進められており、来年5月オープン予定であり、また大型店舗の進出も続いております。

一方、北の玄関口である比田勝地区でも、国内航路のターミナルも完成し、本年度は国際ターミナルの建設も始まっております。

南の玄関口厳原港と北の玄関口比田勝港は、国道382号線につながっており、国道、県道の改良工事も進められておりますが、まだまだ未改良のところも多々ありますが、順次計画はなされていると聞いております。

そこで、厳原以南のほうを見てみますと、県道、瀬浦厳原港線の改良も内山坂トンネルの開通により、利便性もだいぶよくなってまいりましたが、まだまだ未改良のところが多く、早急なる改良が望まれます。

このような状況の中で、南部地域の豆敷地区が取り残された地域のような感がいたしますが、市長はどう思われるかお聞きをしておきたいと思っております。豆敷地区は、昭和32、3年ごろは、3,000人近くの人口であったと聞いておりますが、現在では人口800人程度に減少し、所

帯数は4 1 6世帯、高齢者率は4 3%になっております。

しかしながらこの地域は、日本のルーツが秘められた地域であり、歴史、民俗、風習と他に類を見ない貴重な文化遺産の宝庫であります。このような地域を後世に継承していくのが我々の責務だと思えます。

そこで、1点目の旧豆殿支所跡、これは住民センターを含みますが、南部地域の拠点として位置づけ、地域内に残る文化、民俗、風習等の資料並び近年仏像の盗難等もあり、文化財の管理も徹底しなければならないと思えます。多久頭魂神社に保管されている国、県指定の文化財を展示できる資料館及び道の駅的な地場産品が販売できる施設としての活用ができないかお伺いをいたします。

また、地域内を観光するには、観光バスの乗り入れが不可欠だと思えますが、道路が狭く離合する場所が必要であり、乱川上に二、三カ所程度離合する場所の設置ができないか、これもお伺いをいたします。

次に、空き家の活用策であります。現在地域内には百数十軒の空き家が点在しておりますが、島おこし協働隊の活用はできないか、これもお伺いをいたします。

次に、バス停に待合所の設置はできないかあります。地域内には3カ所のバス停がありますが、3カ所とも待合所がなく、雨または冬場は特に高齢者の方々はつらい思いをしてバスを待っている状況であります。来年5月から病院も美津島まで行かなくてはならず、高齢者の方々に配慮をした待合所の設置ができないかお伺いをいたします。

以上4点、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 船越議員の御質問にお答えをいたします。

まず第1点目が教育委員会文化財の関係でございます。

旧豆殿支所跡を豆殿地区の文化財をまとめて展示する資料館として活用することについての御質問です。

御承知のように、豆殿地区は対馬の中でも特に多くの指定文化財を有している地区であります。主藤家住宅などの重要文化財が3件、国指定天然記念物である龍良山原始林、一部が盗難被害に遭った多久頭魂神社大蔵経など県指定文化財が3件、保床山古墳など市指定文化財が3件、さらに亀卜習俗と赤米行事が国選択の無形民俗文化財であり、まさに文化財の宝庫と言える地区であります。

文化財の保管場所については、当然所有者の意向が尊重されるべきであり、その承諾なしでは保管場所を変更することはできません。保管場所を決めるにあたっては、所有者や地区の事情、防犯や防災対策の状況、緊急時の体制等いろいろな面からの検討が必要であろうと考えます。

御提案のように、地元の文化財を地元で集中的に管理していくという方法も選択肢の1つであろうと思いますが、全体的な考え方として重要なものについては、既存の資料館や新たに計画中の博物館での活用等も含め、一括管理という方法の検討も必要ではないかと思っております。

ただ、御提案のあったように、旧豆酏支所の活用を考える上で、地域マネージャー制度に基づく地域づくり計画等により、例えば赤米行事に関するものや亀卜習俗に関するもの等、住民の皆さんで資料展示を検討するようであれば、できる限り協力をさせていただきたいと思っております。いずれにいたしましても、所有者や地区の皆さんとの協議が重要であると考えております。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 船越議員の質問に答えさせていただきます。

文化財をまとめて展示できる施設及び道の駅的なというふうなお話がありました。この道の駅的な、地場製品の販売ができる施設についてでございますけれども、現在旧豆酏小学校前の県道脇に、民間の方によって産直の駅と銘打って、出店運営がされ、地元でとれた野菜とかみかんとか果実類、さまざまな地場製品が販売をされております。

また、この豆酏地区では交流人口の拡大と人が集う活気ある集落づくりを目指すために、地場製品を取り扱う朝市開設の検討なども今なされているようでございます。議員御提案の地場産品直売所の設置については、地域の活性化、交流人口の拡大に大きく寄与するものであり、市としても支援をしなければならぬというふうに思っているところでございますが、現在既に動き出している、あるいは動き出そうとしている地域や民間の方々の方々の活動を見守りつつ、必要に応じて行政として支援をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、乱川に離合場所の設置はできないかと、大型バスの乗り入れがどうしても今後不可欠である、そのためにも離合する場所がないために、乗り入れが難しい状況になっておるのではないかというふうな御趣旨のお話でございました。

旧豆酏出張所跡を南部地域活性化の拠点として活用した場合、大型バスの乗り入れが予想され、大型バスの回転等が出張所跡の駐車場では狭いため、乱川部分のほうに張り出して離合場所を設置をし、大型バスの回転等が円滑に行えるようにするものと、そういう御趣旨だと理解をしております。

この場合の離合場所の設置につきましては、乱川左岸部分が主要地方道の道路護岸となっており、そういう関係上、振興局へ協議が必要であります。旧豆酏出張所の跡地利用が決定すればその利用形態に応じ、関係機関と調整をできる案件だというふうには思っております。

次に、次の御質問で空き家の問題がございました。確かに島内で997——24年度調べでございますが——空き家があると、豆酏地区にも40件あるというふうに調査結果は出ております。

この空き家対策というのが大変難しい問題ではございますが、今議員がおっしゃられました、

島おこし協働隊を活用してできないかという御趣旨が、ちょっとこちらのほうもどのような意味合いを人呼び込んで、どのような展開のお話なのかなというイメージがちょっと湧かなかったものですから、大変申しわけございませんが、席に着いたときに、はい、説明をしていただければと思います。それに応じて答えさせていただければと思います。

4点目のバス停の待合所の設置の問題でございます。

これにつきましては、1日4便2往復運行をこの豆酩地区内においてはされております。豆酩地区内のバス停につきましては、旧小学校前、旧豆酩出張所前、そして豆酩の3カ所ございまして、路線バス用の待合所は設置されていない状況であります。豆酩小学校前にスクールバスの待合所があり、路線バスの待合所としても兼用させていただいているところでございます。

市といたしましては、合併前に各町で整備された待合所につきましては、災害時等の緊急的な待合所の補修は行っておりますが、市営バス路線を除き新設につきましては、運行事業者としてのサービスの観点から、対馬交通のほうに設置していただくことを基本的な考えとして今思っております。

現在、市の地域公共交通の活性化協議会におきまして、バス路線等の再編計画というものを作成をし、島内における公共交通体系の見直しを行う予定でございます。この再編計画によりまして、バス路線の見直し等も行うこととしており、方向性ができた中で今おっしゃられましたバス待合所につきましては、対馬交通とも協議を、あらためて全体協議をさせていただきながら、市としてどう取り組んでいくのかということを考えていきたいというふうに思っておりますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

なお、この路線バスにつきましては、自由乗降区間というものの設定があります。逆に対馬においては禁止区間が少のうございますというか、豆酩地区においては、この自由乗降、路線に出て来た場合の路線の中に出て来た場合の自由乗降っていうのが可能であります。これらのことをしっかりと周知をしながら、利用者の方たちにとっての利便というものを高めていくようにしなければいけないと、改めて御質問を受けて感じておるところでございます。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） この豆酩地区南部地域の振興策について私は2回目なんです。

1回目は、農道から多久頭魂神社の裏の農道から多久頭魂神社の横の道路の拡幅をやって、そして多久頭魂神社の前の駐車場をつくってそこに公衆トイレはできないかという質問をさせていただいた経緯がございます。その回答もまだまだ進捗状況はどうなってるかっていうのは返答いただいてませんので、どのようになってるかわかりませんが、要はそういうことの返答がくることによって、我々も次の展開というのを考えるわけですが、全く来ない中ですと次の展開をやっぱ

り考えんといかん。そうすると先ほど言いましたように、巖原から比田勝までは国道でつながってますから、ここはずっと栄えていくんです。巖原は特に今いろいろな事業やってます。ところが先ほど言いましたように、南部地域というのは、なんか取り残されたような感じがするんです。私はすごいする。そう思うんです。ですから、南部地域の振興策がどうしても考えてもらわなかんというなことで、今回の質問をさせていただくわけですが、やはりその南部地域を活性化するには、大型バスの乗り入れというのはこれは不可欠ですよ。この前のときも私もバスの乗り入れができる場所ということで、多久頭魂神社の前に駐車場とめてそこに公衆トイレつくってやったらどうかという話もしました。ところが何の返答も来ません。なってくると、今度はまちの中にバスを持って行って、そこでそういう道の駅的なものもやりながら、地域のそのの産品も出してもらうて、そしてそこで活性化を図らないかんのじゃないかな、そういう発想に今回入ったわけです。

やはり先ほど市長の話では、県道沿いですから県との協議もいるでしょう。しかし考えてみますと、あそこに大型バスを入んことには豆殿は栄えません。地域の中が。今は観光バスが行きよるのは、美女塚を通過して尾崎山のほうに行くんです。そうすると、そこからこちらには来んわけですから、地域の中入って来んわけでしょ。そうすると地域が栄えません。だからそれをしようということで、私もいろいろ考えるんですが、この前の話もまだまだそこまで行ってませんので、今回は今旧住民センターあそこが空いてますよね。ですからそこを有効利用して先ほど教育長にもお話をしましたが、その中に資料館たるものをつくって、観光客もそこに来れば、多久頭魂神社の中にある国宝級の金庫あるいは県指定の大蔵経、そういうもんもそこで見れる、この地域というのはすごい地域やなというのが感じられると思うんです。そういう地域なはずなんです、豆殿っていうところは。教育長が先ほど説明してましたから言いませんが、そういうところの宝庫なんです。それをそういうふうなものがたくさんあるのに、活用しきらん、されてないというのが私は悔しい。何とかこれを活力を増すには、そういうことがいるでしょう。それには市長、私はそこを何とかバスが入るようにして、そこでひとつバスがとまって、そこでそこから皆さんが金剛院でも主藤家住宅でも行ける多久頭魂のほうも行ける、そこにもトイレがあります。そこでゆっくりしてください、その間に道の駅的なことでやってそこで産品を買っていただく。みかんもちょうど今から12月ですから、今からみかんがおいしくなりますよ。そういうもんもそこで出していただくということによって、その地域が変わっていくんじゃないですかということ、私は言いよる。

今先ほど言いました1点目、2点目はこれつながってますから、同じように私も質問していきますが、大体そういう発想で私も今市長並びに教育長にお願いしとるわけですから。私がこう、私だけかもわかりませんが、どうも南の南部地域というのは取り残されとるという感じが私はす

るんですが、市長はどう思いますか。私はそう思うんです。だからどんどん向こうは、ばんばん物を建っていくが、自分こちらのほうになってくると何もないよと、こうやってくださいというでもそれも通じません。これじゃね、やっぱり段々衰退していきます。

だから、1点目2点目はまとめて今話をしていますから、そこら辺のことで。教育長、今言われることは確かにその地域マネージャーもおりますから、地域マネージャーといろいろ話もせないかんでしょうが、要は今盗難事件が頻発していますね。こういうこと考えると、やはりそういうのをしっかりそういうところに納めて、今資料館、今度博物館のところに持って行ったらどうかという話もありますが、私はその地域にその品物が今までずっとあった品物ですから、そこでなからんとだめ。そこにお客さんを呼び込んで来ないかん。博物館に呼んでくる資料はたくさんある。

ところがその地域にある宝をそこで見せんことにはお客さん来ません。もう1つ、大蔵経つていうのありますよね、県指定の。これは経典だと思いますが、あれは1年に1回ぐらい虫干しせないかんです。やっていますかね。今あそこの倉庫の中に入ってるんですが、倉庫の中に。あれも屋根をちょっとはぐられてましたけど、この前。しかしやっぱりそういうふうなテレビカメラがついとるから安心ですよとそういう問題じゃない。あれは、虫干しをして、虫がつかんように1年に1回ぐらいやらんといかん。そうせんと腐ってしもうたら、虫が食われてしもうたらどうにもならんようになる品なんです。そういうこともやっていますかと。よろしく答弁お願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 豆殿における文化財っていう位置づけ、10を超える十二、三の文化財指定がああ地区にまとまってあるという、まさに民俗学的な観点からいって宝庫なんだということは、もう以前からずっと言われ続けている。取り残されてるんじゃないかというふうに船越議員はおっしゃられました。逆に地域のほうからあれだけのおっきな集落です。やはり集落が一体となつての動き出しというのも私は必要な時期になったんじゃないかなと思ってますし、こちらのほうからの動き出しとして、そういう地域マネージャーっていう制度を入れ込みながら、その一体感というのをつくっていくことをやっているつもりでございます。

その何回も話し合いはマネージャーもしてくれてると思います。地域の出身の人間ですから、地域の実情もわかった上でやっておりますけども、そういう中、どのように地域づくり計画つくりかということ素案的なものもちよつと見させてはいただきました、以前。

先ほど朝市の開設なんかを豆殿でやってみようじゃないかという話もあります。実は先週も都会のほうから女性だけのツアーが豆殿に入り込んで来る、そして先ほどおっしゃられた、あそこが持っているみかんというもののみかん狩りをみんながされる、女性陣がついていうものが幾らでもあるわけですよ。そういう中での十二、三ある文化財の説明の仕方とか、ただ単に見せるだ

けではなく自分たちの集落の今までのきた歴史っていいですか、ほかとの違いとかいう部分を伝えていく語り部みたいなのも育てていかないといけないし、若干違う豆殿弁です、豆殿弁でやはり話していくこともすごく大事だというふうに思っています。

そういうそのあたりのつくり込みっていうのをまさに地域づくり計画の中に入れ込んでいく、そして今おっしゃられたように、そのときに人が入って来てももらわんばいかんけども、どのように車駐車させるとか、どう離合させる、どう回転させようか、どこに人を集め込んで、そこにどう多くの豆殿の人たちが絡んでいくのかいうことをまさに今つくってもらおうとしよるところであります。

私きょう、船越議員のほうからこの南部地区における、おっきな意味の振興策ということの御提案受けたわけですが、私自身も感じるころは一緒なんですけども、今この話を議員さんがおっしゃってある話というのも、豆殿の人たちも聞いてあると思います。また、うちの地域マネージャーも聞いてると思います、どこかで。そういうのをどのようにその地域づくり計画の中に入れ込んでくるかということ、私どもは地区の皆様にもお願いをしたい、私どももそちらに誘導をしていくっていうことが、すごく大切な今時期なんだろうと思っております。

そういう意味において、船越議員がああ宝庫である豆殿っていうところでの提案をしていただいているというのは、豆殿地区民にとっては、大変ありがたい話なんではないかなというふうに思っておりますし、自分どももそのことに向かって、豆殿の人たちと一緒に支援をしていきたいと思っております。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 先ほど管理について大丈夫かというお話でしたが、いろいろな事情があって詳しい具体的なことは言えませんけれども、適正に管理されていると認識をしております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） まず教育長からいきましょね。適正に管理してますか。大蔵経は年に1回虫干ししてますか。私はしてないと思う。それは適正って言わないんです。文化財をやはりそういうものを後世に残していこうっていうのは、教育委員会の文化財課っていうのは、後世にそういう虫がついてぼろぼろになったら後世には伝えられんわ。そうなる前にそういう管理というのはしっかりしとかなないと、文化財というのは。私はそう基本的にはそうだろうと思う。それは特に多久頭魂神社のところの大蔵経が入ってる小屋なんかっていうのは、夜なんか誰もおりません。昼でもそんな行かんわけですから。そういうところに置いとけば、例えテレビカメラをつけてますから大丈夫ですよと言うたものの、この前みたいな韓国人が来て、誰もおらんっていうことになると持って行こうと思えばすぐ持って行けますよ。テレビのあたりもペタンと何か張っとけば映らんわけですから。

だからそういうことする人は知恵がついとるんです。だから大丈夫、大丈夫っていうことじゃない。だからそういうことも含めて、やはりそういうところにせっかく住民センターも空いてますので、そういうところに展示をして、資料館的なものをつくって、しっかり管理したらどうかということを提言をしとるわけです。

それと市長、先ほど島づくり協働隊、それ一緒に言いますから。要はその空き家が今百何十軒か、この前数えてもろたらありました。まさに今、先ほど私言いましたように、800人ぐらいしかもうおらんようになった。そこ中で高齢者率は43%です。半分は高齢者なんです。そういうところに、地域で何かやるからもう市も応援しますよって言うたって馬力がないです。だからそういうところにそういう協働隊の人たちが入っていただいて、そして違う感覚で物事の発想を組み立てていただいて、それで活力を生み出していくとそういう指導もやっぱり必要だろうと思うんです。

例えば今までずっと豆殿の人たちがいろんなことを考えるけども、俺たちはやっぱりこれくらいのことしか考え切らんぞと、こうがいいじゃないとかああがいいじゃないとかそんな話ばかりで終わってしまうと。ところが、違う観点から今言うたような史跡文化財がそんだけたくさんあるとこであれば、都会から入って来た人は、こういうのに有効利用しないかんいう発想が違うと思うんです。そういうのを引き込んでくださいと、そういう人たちに。空き家がそんだけあるわけですから、それに伴って空き家対策のいろんなアイデアが出てくると思うんです。それをそういうふうな利用の仕方、使い方をしていってもらえませんかということですね。

もう1つ待合所の件なんです、この前私、旧巖原町の、美津島町は旧町時代に待合所をたいていつくってるんです。ところが巖原町はあまりつくってない。旧巖原町の尾浦からずっと回って安神までずっと回って来たんです。待合所があるかないか。回ってきました。そうするとおもしろいことがあるんです。尾浦、安神なし、久和が1カ所あります。内院は2カ所バス停ありますが、1カ所あります。浅藻は1カ所ですがあります。豆殿は3カ所ですがありません。それから瀬は2カ所ですが2カ所とも待合所があります。内山も2カ所ですが2カ所とも待合所はあります。久根浜もあります1カ所ですけど、1カ所。久根田舎も1カ所あります。上槻も1カ所あります。それから椎根も1カ所あります。ところが小茂田方面はずっとないんです。阿連に1カ所ある。ずっと私回ってきたんです。1日かかりませんでしたけど。

やはりこれぐらいに地域の人たちがこっだけ高齢者がふえてくると、先ほど市長は今度病院が新病院ができるんで、やっぱりバスの体系の今組み直して、いろんな体系を組み直そうとしよると思うんですが、やはり高齢者がふえてくると、今すぐで言ったってそこ行きよったってけまつれるかもわからん。バスはそこにとまってくれるからいいぞとて言うたって、はあバスが来よるけどあわてて来よったらけまつれるかわからん。やはり、豆殿にでも1カ所ぐらいいますよ。

どうですか。1カ所ぐらい、そりゃ交通会社にも補助金というのは出とるわけですから、市の権限がないわけじゃない。特に安全・安心して暮らせる島づくりをするのであれば、そういう年寄りにも高齢者の方にも優しい島づくりもせないかん。そういうところに配慮した気持ちも私はいると思う。どうでしょう。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、全旧巖原を回って来ましてっていう話でございました。今、場所をこうないところあるところの話聞いてて思ったんですが、もしかすると中学校の拠点校っていいですか、そういうところに来る集落っていいですか、にバス停が待合所が用意されてるのかなど。逆にその拠点地域がバス停が欠落したのかなというふうに、今こう話を聞いてて思いました。それは、今までのことでございます。決してそれだからいいっていうものではありませんが、先ほど言いましたように、自由乗降っていうことで、路線のところまで出てくれば乗れることは乗れるんですね、これは。皆さんが皆さん、その路線の近くに家があるわけではない。確かにそこまでは出て来ないといけない問題、もしくは他人のっていうか親戚とかあるかもしれないけれども、人様の家の軒先を借りるみたいなこともやはり落ちつかない部分もあるかと思えます。そういう意味において、今3カ所、1カ所はスクールバスの待合所があります。3カ所がない状況でございます。どのような場所がほんとでいいのかっていうことと、今の元のセンターですね、センターの位置の使い方のお話もありました。建物の中の使い方と外の使い方もあわせておっしゃられました。そのあたりも一緒にこれは、組み立てていかないとばらばらになってしまうも無駄になることも考えられます。

これ、このまま帰りまして、帰った後にマネージャーのほうに1回おろしてみます。今の言われた3点とかいうのをどのように組み立てていくか、今宿題を私は船越議員さんからもらいましたので、それについてはどういう形がいいかっていうことを、地域にも1回おろしてみたいと思いますのでどうかそれは先ほどの話ではありませんけれども、きちんと回答はしかるべきときに返したいと思いますので、御理解いただければと思います。（「いいですか、言わなくていい」「済みません、協働隊の話」と呼ぶ者あり）

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 協働隊のお話がありました。趣意書の中には空き家対策としての島おこし協働隊という表現になってる。空き家対策どのようにというふうなことがあったものですからお尋ねしたわけですが、趣旨はわかります。島おこし協働隊を募集をかける前に私ども部局、それぞれの部局のほうとかJAとかいろんな関係団体、公的団体のほうに一応おろして、どういうものがどういう使命をもった人が業務が求められているかということこう拾い出ししてるんですけども、今の言われた部分については、地域とか地区のある意味問題っていうのを、地区まで

は正直言うて聞いてない状況でありました。全部におろしたとき大変なことが起こるっていうこともどっかであるのかもしれませんが、自分心の中に。

しかし、43%とかそういう数字まできてる地域、そして何十件も空き家が見受けられる、そしてたくさんの文化財とかいうものがある地域において、新しい知恵を入れることによって物事は変わるではないかという御提案を受けました。

今12月に入ってから募集はかけておりますけども、随時の募集も可能でありますので、今言われた部分について、組み立てを追加の組み立てっていいですか、それをちょっと内部でやる価値あることだというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ぜひですね、市長そういう発想のもとにあそこにあれだけのものがあるわけですから、じっとほったとくわけにもいきませんよと。だから私の提言があるんですが、「掘り起こせ活力、よみがえれふるさと」という言葉があるんですが、これは死んだ吉見県議が残した言葉なんですけども、私もその言葉大好きで、これ私もずっと使ってるんですけども、まさにそのとおりでと思うんです。活力を掘り出してくる、そして昔のみたいなそういう地域によみがえれふるさというぐらいに、やはりそういう環境づくりはしていかないかん、私はそう思う。

もう1つは、今先ほど言いましたが、美女塚茶屋があります。ここは尾崎山に続いておりますが、雷神社のとこに道路がありますがここは車は小さい車しか通れませんよね。そうすると美女塚茶屋のほうに入っていくとバスはもう回って来ると思うとまた回って来ないかん。あそこから1本県道のほうに豆殿のほうに向けて道路1本通したらどうですか。そうすると美女塚茶屋通ってそのままずっと来れる。部落のほうに入って来れる。わかりますか。美女塚茶屋にはトイレもあります、休憩するところもあります。そうするとそこからその道路から尾崎山に行く道路から途中から山、低い山のところ狙って道路1本県道に出して来る。そうすると部落のほうに入って来ますよと、地域の中に入って来るだろう。そうするとあそこぐるっと回ってしまえる。そういうこともやっぱり考える必要があるんじゃないかなと思います。

先ほど島づくり協働隊のその方の話をしましたけど、やはり地域というのは地域マネージャーがいても、その古参の人たちとか長老の人たちとかそういう人たちとの話になると、お前は何かとかと言われると、もうあんまり突っ込んで言いきらんごとなる、部落の人間ですからね。そうするとやっぱり違う血が入って来て、先ほど言うような、そういう血が入って来て、全体的にその地域のやつを全体的に見た中で提言をしていって、地域マネージャーと一緒にやっていく。そういう血は入れてかないかんと思う。そうせんとそこ変わりませんよ。なかなか変わるもんじゃない。そういうところに活用してほしい。言い出すときりがないんですけどね、まだまだ言いたいことたくさんあるんですけども、民宿っていうか民泊ありますよね。ああいうところも結構今人

気があって、都会からも来ていただいておりますよ。その人たちもやっぱり自分たちが車を運転してその人たちを連れて、ずっと対馬をずっと案内して回って、そして喜んで帰っていただいております、そういう状況もあるんです。だから、やろうと思えば、そういうこともそこででもできるでしょうし、対馬全島どこでもできると思うんですが、やはりそういうふうな発想も、若いそういう人たちに入ってきていただいて、違う感覚でその地域内を見ていただいて、そこの中でどうしたらこの地域がよくなっていくか、こういうアイデアをしっかりと出してもらう中で、その地域の活性化を図っていく、振興策を図っていくことは、これは必要だろうと思う。だからぜひその点も含めて、考えてみてください。

それと先ほど言いました、乱川に離合場所の設置、これについてもぜひ検討してくださいよ。地域の中にバスを入れるようにしてください。そこをそうせんと、物事は先にずれません。部落の中にその地域の中に大型バスが入ってくれば、入るようになれば、物事は変わっていくんです。ところが組み立ててもらうて、その中で対応を考えましょうって言うたって、どちらが先かってこうなるんです。

だからできるところは行政がそうやってしっかりやった中でそしたら必ずついてきます。物事は開けていきますよ。そういうことも含めてしっかり担当部長も含めてしっかり市長も協議をしていただいて、南部地区の振興策については、るる私も言いましたけども、私が言いましたように何かちょっと取り残されたような感があるって言うのは私だけかもわからんが、私はそんな感があるんで。だから絶対どうしてもここは北と真ん中と南とこれだけはしっかり繁栄させないかん、活性化させないかん、真ん中と北だけがよくなってもいいかん、南の端までも対馬というのはよくならんとだめなんです。そのだけの要素をみんな持つとるんですから。ぜひその点は取り組んでいただきたいと思います。最後に、今まで私もいろいろしゃべりましたけども、そこら辺のことで市長の意気込みをちょっとお聞かせください。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど民宿の話がありました。民宿の方も私そのツアーを見送りにジェットフォイルに行ったときも、見送りに行ったお客様は豆餠にたしか民宿に泊まれたと思っております。その方が次のお客様をジェットフォイルにお迎えに来てありました。このようにして豆餠の魅力とかいうのをわかって、伝えていってあると思います。発信を自らもされてると思います。そのあたりがどんどん広がっていけば、豆餠ってところの本来の価値っていうのがわかっていただけるはずだと思っておりますし、今の時期の豆餠みかんのすばらしさっていうのをたまたま一緒に来た王監督の娘さんの王理恵さんは、それこそ喜んで食べて持って帰ってありました。

こういうみかんっていうのが、佐世保の女性でしたけども、いやないと、県内にもこういう味

の味が濃くて、やはりいろんな視点とか観点を持った方たちを楽しませることができるだけ、何か深みとか広がりとかいうのを豆殿地区っていうのを私は持っていると思うんですね。そこを豆殿の皆様方も気づかないといけないし、先ほど御提案がありました、外の人方が入って来て、その部分を覚醒させるということも行政側の施策として必要なのだというふうにも感じた次第です。

乱川の上流の拡幅のお話がありました。一部何軒か、何軒ですか、家が道路際にはあります。それがすぐ可能なかどうかわかりませんが、少なくとも分遣所を豆殿に今消防署を設けさせていただいておりますけども、あの県道との分岐点っていいですか、あの部分についての道路については、一定の幅員をきちんととった広い幅員にあそこはしております。それをどのように上流側につないでいくかということの御提案があったものと受けとめて、行政がやれば必ずついてくるよって、今船越議員がおっしゃられましたが、なかなかそうもならない部分もありますから、そのあたりの方向性とかいうものを地域の方向性とかいうものをきちんと私どもも確認しながら、またこちら先ほどの協働隊の話じゃないですけども打ち込みながら、いっしょに走って行くというふうな体制を整えなくてはいけないと思いました。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 乱川の橋の離合場所の分ですね。これは今消防署ができたところ、拡幅しとるところにそれをつくれということじゃなしに、途中なんです、私が言うのは。（「道路」と呼ぶ者あり）道路、道路何というか豆殿の旧支所跡、ここを有効利用しようというわけですから、だからその右てにある川、これ個人の家にはずっと橋がかかっていますよ、あそこは。だからそこら辺で何か所かつくることによって変わりますよという、そこなんです。（発言する者あり）あそこじゃない。（発言する者あり）いやいやそれは雷神社は、家を立ち退きかけんと入らんでしょ。だから、私がさっき言ったのは、美女塚茶屋、美女塚ありますよね、あそこを過ぎた巖原のほうから行ったらこう下り坂になると思いますが、そこから山を突っ切って1本道路をつくったらどうですかというんだ、県道に向かって。あその山低い山やから。（発言する者あり）そこまでいかんけど。だから、そういうことも含めてその豆殿地区の振興策を考えていただきたいということなんです。だから市長、その地域を思えばやれんことでもやれるんです。ぜひそのつもりになって、豆殿地区の南部地区の振興策をしっかりと考えていただきたいと思います。終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） あすも定刻より引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後 3 時50分散会